

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

長野県

自治体名：長野県

担当課名：教育委員会事務局保健厚生課

電話番号：026-235-7448

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	13,562 km ²
人口	1,985,446 人
公立中学校数	182 校
公立中学校生徒数	49,710 人
部活動数	1,257 部活
都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における都道府県の現状・課題

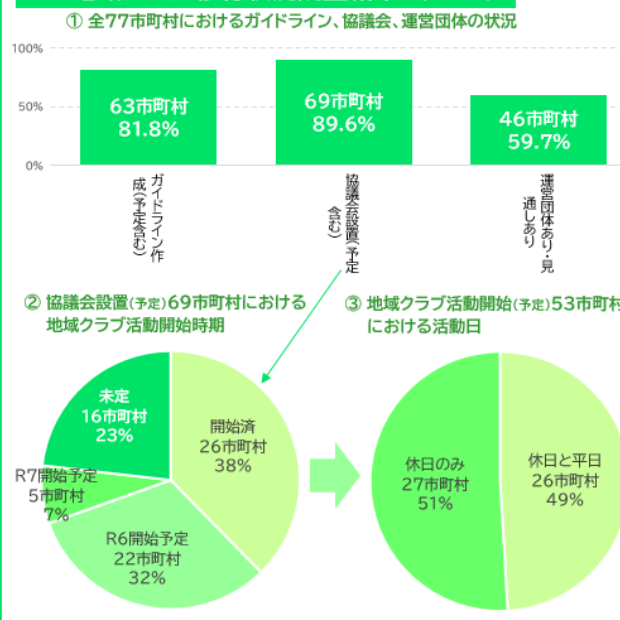
本県は、**市町村数（77市町村、全国2位）及び過疎市町村数（40市町村、全国3位）が多い**。そのため、地域移行の取組における進捗状況は市町村によって差がある。特に中山間地においては、中学校部活動に代わり、生徒の多様なニーズに応じた活動を保障しつつ持続可能な**運営団体や指導者を確保することが難しい**。

1 地域移行の現状

- 本年度、21地区33市町村が国の実証事業を実施。他に、独自に実施が15市町村。
- 生徒のニーズに応じるための複数市町村による広域連携は、令和5年度：2地域（8市町村）から、令和6年度：6地域（18市町村）へ増加。
- 県による市町村への訪問支援は、令和5年度が14市町村（のべ12回）令和6年度（8月末現在）が38市町村（のべ47回）。

- 8月に実施した調査では、令和7年度中に53市町村（約7割）が、休日の部活動を地域クラブへ移行予定。
- 市町村の要請に応えるため、県の総括コーディネーターを増員し、手厚い支援を加速化。
- 実証事業から得た成果と課題を検証し、標準モデルを作成の上、特に動き出しの遅い市町村への支援を強化。

2 地域クラブ移行状況調査結果（R6.8）



3 明らかになってきた課題

(1) 運営団体（受け皿団体）不足

- 協議会設置後も、運営団体（実施主体）が定まらず、地域クラブ活動を開始できない。

<要因>

○ 財源の見通し不足

- 指導者報酬等、クラブ運営に係る財源の見通しが立たず、運営団体の選定まで至らない。

○ 人材（指導者・コーディネーター）不足

- 小規模町村を中心に、地域指導者やコーディネーターの候補者を採せない。

(2) 指導者の質の担保

- 適性（見極め）と指導上のガバナンス確保を再検討。

(3) 関心・理解不足

- 移行が進まない地域では、保護者や地域の関心が低く、現状維持を良しとする風潮が見られる。

(4) 事例不足

- 保険の加入、適正な受益者負担額、平日の部活動との連携、事故発生時の対応、大会参加の在り方、クラブ運営に係る諸事例を基にした研究が不足している。

必要な支援

体制整備

財政確保

指導者整備

指導者整備

普及啓発

普及啓発

体制整備

スポーツ庁

年間の事業スケジュール

	令和6年度 4～9月	令和6年度 10～3月	令和7年度 4～9月	令和7年度 10～3月	令和8年度 4～9月	令和8年度 10～3月
国・改革推進期間	本県における休日の学校部活動の地域クラブ活動への移行完了目指期間					
市町村の主な取組	① 体制整備 ・協議会設置、コーディネーター配置 ・運営団体・実施主体の体制整備		② 学校等施設活用 ・効率的な活用 ・管理方法の検討		③ 財源確保研究 ・受益負担と運営バランス研究 ・経費減の可能性の研究	
県の取組①	協議会・運営団体設立支援 保障 要配慮 ・協議会設立支援・運営団体の助言 広域連携支援 保障 要配慮 ・広域レベル事例紹介・近隣市町村連携調整		平日・土日一貫体制整備支援 保障 要配慮 ・平日の地域移行モデル地化支援 運営団体設立に向けた各種団体との調整 保障 要配慮 ・県・市・協会の、異業種団体、組合型地域SC、S・C青少年団、県文化芸術団体等との相談支援		多様なスポーツ体験実証 保障 要配慮 ・練習場所までの移動手段の研究 ・地域独自の運動の研究	
体制整備支援	指導者人材リソース配布 保障 要配慮 ・企業・大学連携 保障 要配慮 ・企業、大学等から指導者募集 大学連携地域クラブ指導者育成事業 保障 要配慮 ・地域クラブ活動指導講座（実証）等により、選抜講座で単位化しOIO		指導者マッチング 保障 要配慮 ・指導者研修修習 保障 要配慮 ・指導者研修修習の開催 指導者資格取得補助制度 要配慮 ・指導者資格の取得に係る経費補助 専門指導者研修 保障 ・競技方向にデジタルコンテンツ作成・配信 ヘッドバート巡回 保障 ・指導者必携デジタルハンドブック配布 保障 ・頭部外傷対応、熱中症対応、他		市町村・地域クラブ等へ指導者紹介	
県の取組②	遠隔指導の研究 要配慮 ・ICTを活用した指導者研究 企業連携 保障 要配慮 ・応援企業発掘（寄付・指導者協力等） 財政確保の研究 要配慮 保障 ・地域クラブ運営支援の検討 要配慮 ・地域クラブ運営支援（予定） 要配慮		遠隔指導の実証事業 要配慮 保障 ・ICTを用いた遠隔指導実証 遠隔指導の本格始動 要配慮 ・ICTを用いた遠隔指導の定着化			
指導者整備支援	企業の取組③ 財政確保支援		企業の取組④ 普及啓発支援			
	R5実証事業事例の周知 保障		R6実証事業事例の周知 保障		シブ・ジム開校 保障 要配慮 要配慮 ・県内外先行地区によるシブプログラム	
	兼職・兼業 保障 要配慮 ・前回事項周知		啓発リーフレット配布 保障 要配慮 ・児童、保護者、地域発表		信州地域クラブポータルサイト設置 保障 ・県内外好事例、QA、情報一元化	
	情報提供 保障 要配慮 要配慮		国の動きの情報提供、県の方向性の共有化			

※地区担当者情報交換会を東信、北信、中信、諏訪、上伊那、飯田下伊那の各地区で開催。情報提供、近隣自治体間の情報共有、広域連携への試み

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

長野県地域スポーツ・文化芸術活動連絡協議会

取組事項

○学校部活動の地域クラブ活動への移行の推進に当たり、関係団体により**本県における部活動の現状や課題を共有**し、まずは休日の移行に向けた進め方や**地域のスポーツ・文化芸術活動の在り方について協議**する。

【協議内容】

- ・中学校部活動の現状と課題の整理
- ・地域クラブ活動への移行に向けた基本的な考え方と目指す姿
- ・地域クラブ活動の体制構築の進め方
- ・地域クラブ活動への移行に向けた課題と対応
- ・地域クラブ活動への移行の進捗状況や新たな課題と対応

【構成団体】

スポーツ・文化芸術活動関係団体	県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、県スポーツ少年団、県スポーツ協会、県スポーツ推進委員協議会、県文化振興事業団、県芸術文化協会
教育関係団体	県小学校長会、県中学校長会、県市町村教育委員会連絡協議会、県PTA連合会、県中学校体育連盟、県中学校吹奏楽連盟、県音楽教育学会、学識経験者
市町村関係	県市長会、県町村会、実証事業所在市町村教育委員会
県関係課	教育委員会事務局、企画振興部地域振興課、県民文化部文化政策課

取組の成果

令和4年度	令和5年度			令和6年度		
第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
R5.2	R5.6	R5.9	R6.1	R6.6	R6.11	R7.3

- 令和6年度は3回の協議会を開催（通算7回）
- 今年度は、課題となっていた指導者不足の問題について、量の確保に加えて質の担保という視点から登録にあたっての懸念事項等について協議を重ね、「信州地域クラブ指導者リスト」の運用開始に至った。

今後の検討課題

- 長野県の目指す、令和8年度末の休日部活動の地域クラブ活動への移行完了に向けて、進捗状況の整理とガイドラインの見直しについて検討する。
- 「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」等、国の動向を注視しながら、長野県の今後の方向性について、協議していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○県内にある5つの教育事務所が、管轄するエリアの市町村への支援体制を構築

ー 実施内容 ー

- ・市町村担当者会を開催（情報交換会）
- ・市町村への訪問支援
- ・指導者講習会（依頼に応じて対応）

○情報共有

- ・共有フォルダへ資料、記録等を保存（自由に閲覧可能）
- ・グループチャットを活用した情報交換（スピーディーな情報共有）

取組の成果

所名	市町村担当者会	市町村訪問支援	指導者講習会
東信教育事務所	1	13	1
北信教育事務所	1	10	1
中信教育事務所	3	16	—
南信教育事務所	6 ※2エリア	16	1
南信教育事務所飯田事務所	1	14	—

【担当者の声】

- ・他地区の進捗状況が具体的に分かってよかったです。特に、先進的に取り組まれている事例は参考になるところが多いと思いました。
- ・学校の声、行政の声、双方の話を聞く機会は普段ないので貴重な会でした

支援体制図



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

【指導者リスト】

○市町村や地域クラブ等の運営・実施主体が、市町村の枠を越えて指導・協力者を確保できるよう、「信州地域クラブ活動指導者リスト」の登録サイトを令和6年11月15日より開設。

【周知・啓発】

○指導者募集チラシ及び地域クラブ活動リーフレットを作成し、周知啓発活動を実施。

－ 取組 －

- 1 経済四団体への会報折込・掲載
- 2 県内大学等への協力依頼
- 3 県ポータルサイト掲示板によるよびかけ
- 4 市町村広報誌への掲載依頼
- 5 公立小中学校保護者に配布
- 6 庁舎前、長野駅、松本駅でのチラシ配布

取組の成果

○指導者リスト登録者数（2月28日現在）

281名 ※詳細は「信州地域クラブ指導者リスト登録状況」参照（随時更新中）

○照会自治体数（延べ数）

8自治体

◆登録者の管理を含む、運用の効率化及びマッチングの促進を図る必要がある（民間業者の活用等）

指導者の“量の確保”に係る取組

登録フォーム



設置要綱



地域クラブ活動指導者及び 信州地域クラブ活動指導者リスト

安全な活動を見守っていただける地域の皆様 **募集！**

あなたも地域クラブで活躍してみませんか

「子どもの健全な成長をサポートしたい」 情熱をもつ方

詳しくは、信州地域クラブ活動指導者リスト登録要綱をご覧ください。

登録者には、県内のスポーツ・文化芸術活動の大会等に係る情報提供やオンラインによる研修（無料）を実施いたします

※ 信州地域クラブで指導・協力していただいている方でも登録いただけます

指導者・協力者 登録はこちら

↓

信州地域クラブ活動は、県内各市町村で実施されている地域クラブ活動に、信州地域クラブ活動の地域活動を広げ、信州地域クラブ活動の発展に貢献します。地域の皆様へ、子どもたちの健全な成長をサポートするための地域クラブ活動の発展に貢献します。

小・中学生、保護者様 地域の皆様

一人ひとりの「好き」「楽しい」「なぜ」とこころを追求できる「探究県」長野の学び

中学校の部活動を休日から段階的に地域クラブ活動に移行します

「第4次長野県教育振興基本計画」における以下の「施策の柱」の実現化を図ります

- 生涯にわたり誰もが学び合える地域の拠点をつくる
- 文化芸術・スポーツの身近な環境を整え、共感と交流が生まれる

長野県教育委員会は、新たな地域クラブ活動を通して、以下の姿を目指します

- ◆ 地域の実情や願いに応じたスポーツ・文化芸術活動を充実
- ◆ 子どもたちの多様なニーズに応じた活動機会の創出
- ◆ 他校の生徒との交流による社会性の伸長
- ◆ 多世代交流機会の増加による地域コミュニティの強化
- ◆ クラブ単位による各種大会・競技会等への参加
- ◆ 教員の働き方改革を推進し、地域の学校教育の質の向上

■ 部活動の地域移行って？

学校部活動を地域の多様な主体が運営・実施する地域クラブ活動へと移行していくものです。

学校とも連携しながら、多様な活動を、可能な限り低廉な会費で実施します。

（スポーツ庁 Web広域マガジン DEPORTARE 数字で見るスポーツの現状 #12（2023年3月29日）参考）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



「信州地域クラブ活動指導者リスト」登録状況（令和7年2月28日現在）

① 指導者・協力者数と性別

男性	女性	計
207人(73.7%)	74人(26.3%)	281人

② 指導者・協力者数の年代

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
1(0.4%)	28(10.0%)	48(17.1%)	96(34.2%)	58(20.6%)	39(13.9%)	11(3.9%)

③ 指導・協力可能地域【10広域】（複数回答可、延べ回答数493件）

長野	北信	佐久	上小	木曽	松本	大北	諏訪	上伊那	飯伊
85(17.2%)	64(13.0%)	49(9.9%)	56(11.4%)	15(3.0%)	62(12.6%)	28(5.7%)	53(10.8%)	53(10.8%)	28(5.7%)

④ 指導者・協力者の別

指導者	協力者	指導者又は協力者
137(48.8%)	43(15.3%)	101(35.9%)

⑤ 指導者資格の有無（教員免許や経験ありは除く）

資格あり	資格なし
140(49.8%)	141(50.2%)

⑥ 指導・協力可能な曜日（複数回答可、のべ回答数1,036件） ※割合は、指導可能曜日／登録者数

月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
133(47.3%)	144(51.2%)	143(50.9%)	137(48.8%)	141(50.2%)	240(85.4%)	220(78.3%)

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



⑦ 指導・協力できる活動（複数回答可）

スポーツ系		
1	野球(硬式・軟式)	37
2	バレーボール	27
3	サッカー(フットサル含む)	25
4	バスケットボール	22
5	ソフトテニス	20
6	陸上競技(短距離、中長距離、投擲)	19
7	ヨガ・ストレッチ・ピラティス等	9
8	柔道	8
9	卓球	6
10	バドミントン	5
11	自転車競技(MTB、トラック、ロード、シクロクロス等)	4
12	水泳	4
13	剣道	4
14	フィジカルトレーニング全般	3
15	登山・スポーツクライミング	3
16	アルペンスキー	3
17	ソフトボール	3
18	ラグビー	3
19	硬式テニス	3
20	合気道	3
21	空手	2
22	器械体操	2
23	ハンドボール	2
24	中国武術(少林寺拳法、八極拳)	2
25	スケートボード	1
26	セーリング	1
27	ボクシング、ボクササイズフィットネスボクシング	1
28	テコンドー	1
29	スノーボード	1
30	スポーツチャンバラ	1
31	スカイトレイル	1
32	ビーチバレーボール	1
33	弓道	1
34	ドッジボール	1
35	ウェイトリフティング	1
36	アーチェリー	1
37	スピードスケート	1
38	アメリカンフットボール	1
38種目のべ233人の指導者		

文化・芸術系		
1	吹奏楽・マーチング	26
2	合唱	15
3	書道・ペン字	8
4	美術(油彩、イラスト、鑑賞、アートセラピー等)	7
5	茶道	6
6	軽音楽・ドラムス・パーカッション	4
7	ダンス	4
8	英語・英会話	4
9	民謡・琴・津軽三味線	4
10	ウクレレ・フラダンス	4
11	プログラミング、パソコン、電子関連技術、等	3
12	演劇	3
13	家庭科・洋裁・ソーイング	3
14	写真	2
15	科学実験	2
16	将棋	2
17	技術	1
18	放送(アナウンス、朗読)	1
19	弁論・討論	1
20	感情教育・自己肯定感・誉め言葉	1
21	カラーコーディネート・塗料調色	1
22	クラシックバレエ	1
23	中国語	1
24	国際交流・異文化交流	1
25	弦楽器アンサンブル	1
26	朗読・読み書きせ	1
27	和裁、着付け	1
28	ハーモニカ	1
29	環境問題をテーマに地域活動	1
29分野のべ110人の指導者		

**中学校部活動になかった多様なスポーツ・文化
芸術活動の体験機会の可能性を視野に！**



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



イ：指導者の質の保障・量の確保①

令和6年度
運動部活動及び地域スポーツクラブ活動指導者研修事業

スポーツ・文化芸術活動指導者研修会

※ 現地参集とZoom（オンライン）によるハイブリッド開催

講師
プロバレーボールコーチ
三枝 大地 さん

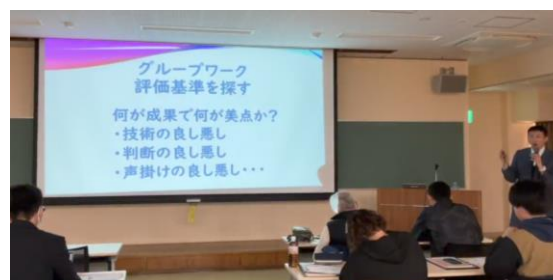
『目標達成と子どもと指導者のマインドセット』

～子どもが次の一步を踏み出す支援～

日時・会場	講師紹介
1 / 18 (土) 13:30～受付開始 14:00～開講式 松本市勤労者福祉センター 3階 3-3会議室 住所：松本市中央4丁目7-26 参加費・お申し込み	✓ FIVB Instructor プロバレーボールコーチ ✓ U16/U17/U18/U20/U23日本代表チームなどトップチームのコーチ・監督を歴任 ✓ 2014年から監督として率いた女子U17/U18ではアジア選手権8連覇 ✓ コーチとして参加したU20アジア選手権2連覇 ✓ 技術指導だけでなく社会で活躍できる人材育成に努めている

参加費無料
お申し込みはこちら ▶

※ 駐車場は限られていますので、できるだけ公共交通機関のご利用をお願いします。
なお、貴重品の保管は、恐れ入りますが周辺の有料駐車場をご利用ください。



指導者の“質の保証”に係る取組

取組事項

1 指導者研修会の開催

○ スポーツ・文化芸術活動に対する指導のあり方や、ハラスメントの根絶と事故の未然防止の安全な指導方法等について理解を深め、指導者としての資質の向上を図るため、地域クラブ指導者や部活動指導員をも含めたに指導者研修会を開催した。

○ 85名が参加し、「選手を大事にする姿勢は本当に尊敬します。今日の講演で自分も初心に返ることができた。やはりチームの主人公は生徒であることを忘れずに前に向かって挑戦を続けていきたいと思う」「指導者としての心持ちを網羅している内容でとても共感できた。今回の研修会で、自分のやってきた事は間違っていない事が分かって嬉しかった」「中学生ではなかなか結果までの道のりは長く、理解して頂けない方も多いです。そんな中でも、失敗しても大丈夫！という大人が1人でも増えていく事で、失敗を怖がり挑戦を避ける子供が減り、安心出来る世の中になる事を願います。」等の感想が寄せられた。

2 信州地域クラブ活動指導者リスト登録者に研修動画を配信

○ 信州地域クラブ活動指導者リスト登録者に、けがの予防や対応、ハラスメントの防止など、指導者として必要な資質についての動画コンテンツを配信した。



3 指導者研修出前講座の実施

○ 市町村、地域クラブを含む総合型地域スポーツクラブ、中学校等の要請に応じて、指導者研修出前講座を実施。（令和6年度実績8回）

4 県総合教育センターによるスポーツ指導者向け研修会の充実

○ 県総合教育センターにおいて、部活動、総合型地域クラブを含む地域クラブ活動の指導者等を対象とした各種研修会を実施。

5 地域クラブ指導者の任用と研修等に係る検討

○ 地域クラブ指導者の任用手続きや研修等のあり方について、県協議会で検討中。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



ウ：関係団体・分野との連携強化

大学との連携

取組事項

○持続可能な地域クラブ活動を推進するため、大学に、「地域クラブ活動指導」の科目開設に向けて依頼及び調整。

取組の成果

○松本大学スポーツ健康学科での科目開設を調整中。まずは担当教官のゼミ生を対象に試行実施。
○大学での講義編 5 単位に加え、総合型地域スポーツクラブでの実習編 1 単位の構成を予定。

講義編（1単位：1回90分、6回実施）		実習編（1単位：1回180分、3回実施）	
内 容	講 師	内 容	講 師
・地域クラブ活動と国や県の施策 ・中学生期の心身的特徴 ・スポーツコンプライアンス ・コーチング哲学 ・総合型地域スポーツクラブ等運営論	大学教授 スポーツ振興課職員 保健厚生課職員 県スポーツ協会職員 県総合型地域SC理事	地域クラブ活動の実践（運営・指導）	地域クラブ活動

今後の課題と対応方針

取組の概要イメージ

「地域クラブ活動指導」科目の開設を目指す



大学

【大学の役割】

- 新規科目の開設と単位取得の認定
- 指導教員の選定
- 事務局による事務処理

- 地域貢献
- 学生の実践力向上
- 実践的教育研究の機会

大学ブランド力の向上

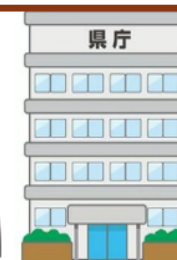


地域クラブ活動

活動の活性化

【県教育委員会の役割】

- 講義指導者の派遣
- 実習先となる地域クラブの斡旋
- (仮)長野県地域クラブ活動指導者の認定



県教育委員会

- 指導者の量の確保
- 指導者の質の担保

部活動地域移行の推進

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○市町村担当者との連絡調整（広域連携）、運営協議会への助言、実践研究の成果の分析・普及等を行う「県総括コーディネーター」及び国や市町村との契約、事業報告書等を取りまとめる行政事務職員を配置。

取組の成果

○69市町村のべ106回の訪問支援を実施。年度当初は29市町村で実証事業をスタートしたが、年度途中で4市町から希望があり、33市町村となった。

○個別支援の依頼に加え、自治体を越えた広域連携を希望する市町村間の調整や話し合いの場を設定した。協議会の設置の仕方や財源の負担の仕方など、具体的な事例を紹介する等情報共有を図った。これにより、令和6年度は6地区での広域連携が令和7年度は12地区に増加した。

コーディネーターの支援による広域連携の推進

令和6年度 国の実証事業(地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業)に取り組む市町村

21地区33市町村

地区数	市町村数	市町村名	地区数	市町村数	市町村名
1	1	長野市	9	18	飯島町
2	2	松本市		19	中川村
3	3	塩尻市	10	20	小布施町
4	4	千曲市	11	21	松川町
5	5	坂城町		22	富士見町
	6	須坂市	12	23	原村
	7	飯山市		24	池田町
6	8	栄村	13	25	松川村
	9	木島平村		26	南箕輪村
	10	野沢温泉村	14	27	豊丘村
7	11	飯田市	15	28	麻績村
	12	佐久穂町	16	29	泰阜村
	13	南牧村	17	30	東御市
	14	小海町	18	31	諏訪市
8	15	北相木村	19	32	飯綱町
	16	南相木村	20	33	辰野町
	17	川上村	21		

単独市町村による取組

広域連携による取組

年度内による追加募集



中山間地の多い本県では、子どもたちの幅広いニーズに応じた活動の保証と指導者確保のため、近隣の自治体において広域連携による取組を進めている。

※ この他、15市町村が独自に実施

① 総括コーディネーターの役割

- ・市町村コーディネーターや担当者等への情報提供
- ・県連絡協議会の開催、広域連携の調整
- ・運営団体、指導者派遣等の相談窓口
- ・実証事業実施市町村への対応、及び地域移行が進まない市町村のサポート
- ・競技団体、スポーツ少年団、総合型地域SC、大学等と連携した指導者発掘・育成
- ・指導者派遣や財源確保を目的とした大学や企業との連携体制の構築



② 行政事務職員の役割

- ・実証事業に係る事務手続き、書類作成
- ・市町村担当者からの問い合わせ対応
- ・部局間連携の調整
- ・地域移行に係るホームページ等を活用した広報活動



総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

77市町村と全国でも2番目に多い市町村数を誇る本県において、今年度は33市町村（広域連携を含む）が実証事業を実施し、昨年度の倍の市町村で地域クラブ活動が動き出したことは、これから始動する市町村への参考となる事例が多く得られた。また、市町村の独自事業として地域クラブ活動への移行に向けて15市町村が取り組んでおり、県全体の6割を超える市町村でこの取組が動き出したこととなった。

これだけの市町村において、地域クラブ活動の取組が進んだ要因として、総括コーディネーターの増員したことが考えられる。

2名体制となったことで、多数の市町村への対応が可能となり、訪問支援に出向いた市町村数及び訪問回数共に、約5倍に実績を伸ばした。さらには、市町村に配置されているコーディネーター同士の情報交換会や、教育事務所との連携によって、エリアごとの担当者会を開催するなど、情報共有の機会を増やしたことで、近隣市町村同士で主体的に広域連携の動き出しを活発化させるきっかけとなった。

今後の課題は、まだ動き出しに至っていない山間地の小規模町村へのアプローチの仕方だと考える。地理的な条件等、物理的に推進が難しい地域においては、ICTの活用等を県主導で実施し、先進事例のモデルをつくり同様の課題を抱える市町村へ情報提供していきたい。

●成果の評価

今年度、長野県では以下の3つを重点課題として取り組んだ。

1 地域クラブ活動体制構築等への支援

総括コーディネーターを増員し、市町村の進捗状況の把握や地域移行が困難な市町村へ具体策を提案するなど、きめ細かな支援体制を構築し、全ての市町村が地域移行に動き出すことを目指す。

→ ○69市町村延べ106回の訪問支援を実施

○実証事業において4市町が追加申請

2 指導者確保に向けた支援

希望者が専用フォームから指導者登録し、指導者リストを作成する。その情報を市町村担当者と共有し、マッチングにつなげる。

→ ○「信州地域クラブ指導者リスト」の運用開始(令和7年2月末日現在281名登録)

3 生徒・保護者、地域住民等への理解促進

リーフレットの配布やHPへの掲載等で地域移の目的や目指す姿等について周知・理解を図る。

→ ○リーフレット及び指導者募集チラシを作成し周知・啓発活動を実施（25万枚配布）

●今後に向けて

- 1 地域クラブ活動体制構築等の支援（スタートアップが難しい市町村を中心に）
- 2 企業との連携（地域クラブ活動に対する応援企業の募集 制度構築 等）
- 3 ICT活用のモデル事業（遠隔指導、指導コンテンツ 等）
- 4 移動手段についての研究（担当部局との連携、先進事例の情報提供 等）

2.実証内容と成果②

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

市町村
体制整備支援

受け皿団体や
指導者の確保、
課題確認

令和6年

市町村
体制確立及び
風土・外郭形
成支援

各処説明
広報啓発活動

令和7年

地域における持続可
能なスポーツ・文化芸
術活動の環境整備

令和8年

休日の学校部活動
の地域クラブ活動
への移行完了

●ステークホルダー

市町村・教育・保護者関係、児童生徒

●経過

長野県地域スポーツ・文化芸術活動推進連絡協議会（3回）

地域クラブ活動への移行第1回市町村担当者情報交換会（2回）

県・市町村総括コーディネーター会議（1回）

●実施にあたって生じた課題

地域移行について保護者や地域の関心・理解不足等、必要性を感じていない、経過が分からない、なぜしなければいけないといった意見が出された。

●実施内容、工夫した点 等

中学生期のスポーツ・文化芸術活動アンケートの実施。アンケート結果を踏まえて本県の部活動地域移行における環境整備に係る施策の方向性を明らかにした。

●ステークホルダー

市町村・教育・保護者関係、児童生徒

●経過

長野県地域スポーツ・文化芸術活動推進連絡協議会（3回）

地域クラブ活動への移行第1回市町村担当者情報交換会（2回）

県・市町村総括コーディネーター会議（1回）

●実施にあたって生じた課題

受け皿となる運営団体不足、財源の見通し、指導者の量と質の担保、保護者や地域の関心・理解不足等の課題があり、その解決に向けた課題の整理や検証、地域クラブ活動モデルの実証研究・分析等に取り組む必要があること。

●実施内容、工夫した点 等

市町村の要請に応えるために、県の総括コーディネーターを増員し、手厚い支援を加速化。
実証事業から得た成果と課題を検証し、標準モデルを作成の上、動き出しの遅い市町村への支援を強化。

●ステークホルダー

市町村、地域クラブ

●実施内容、工夫した点 等

課題の整理や検証、地域クラブ活動モデルの実証研究・分析等に取り組む。

・県総括コーディネーター等による市町村訪問支援・個別支援を7千市町村で行う。

・地域クラブ活動周知啓発・信州地域クラブ活動指導者リスト登録者募集活動の継続と強化を図る。

・各種研修会をととして、スポーツや文化活動における専門的知識・技術の習得のほか、安全管理、事故防止、ハラスメント防止などの倫理的指導力の強化を図る

・「信州地域クラブ活動応援サポーター制度」を設け、地域クラブ指導者等の派遣や、企業等が保有している施設や用具の貸与、地域クラブへの寄付や受益者負担軽減のための取組などにご協力いただける企業を応援サポーターとして認証し、その取組内容を広く紹介することにより、企業・団体のブランドイメージの向上等につなげていく取組を進めていく。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

【地域クラブ活動への移行 周知チラシ】

【地域クラブ指導者登録 チラシ】

小・中学生、保護者様
地域の皆様

一人ひとりの
「好き」「楽しい」「なぜ」を
とことん追求できる
「探究県」長野の学び

中学校の部活動を 休日から段階的に 地域クラブ活動に移行します

「第4次長野県教育振興基本計画」における以下の「施策の柱」の具現化を図ります

- 生涯にわたり誰もが学び合える地域の拠点をつくる
- 文化芸術・スポーツの身近な環境を整え、共感と交流が生まれる

長野県教育委員会は、新たな地域クラブ活動を通して、以下の姿を目指します

- ◆ 地域の実情や願いに応じたスポーツ・文化芸術活動を充実
- ◆ 子どもたちの多様なニーズに応じた活動機会の創出
- ◆ 他校の生徒との交流による社会性の伸長
- ◆ 多世代交流機会の増加による地域コミュニティの強化
- ◆ クラブ単位による各種大会・競技会等への参加
- ◆ 教員の働き方改革を推進し、地域の学校教育の質の向上

■ 部活動の地域移行って？
学校部活動を地域の多様な主体が運営・実施する地域クラブ活動へと移行していくものです。
学校とも連携しながら、多様な活動を、可能な限り低コストで実施します。

(スポーツ庁 Web広報マガジン DEPORTARE 数字で見るスポーツの未来 #12 (2023年3月29日) 参考)

本県の「部活動地域移行」に関わる会議資料等ははこちら
https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/hokenko/chikiikou.html

【地域クラブ活動 連絡先】

スポーツ課	文化・芸術課
保健衛生課 学校体育係	学びの改革推進課 義務教育指導係
電話 026-235-7448	電話 026-235-7434
FAX 026-234-5169	FAX 026-235-7495
E-mail sports-gakko@pref.nagano.lg.jp	E-mail kyogaku@pref.nagano.lg.jp

ALL信州で支える 「地域クラブ活動」って何？

(Q1) 県内中学校の部活動における課題は？

- 生徒数の減少により、学校単独での活動や大会参加が難しい
- 廃部や休部により、生徒の興味・関心のある部活動の保障が難しい
- 専門知識が60%以上、専門的な指導ができず、教員の負担も高まっている

(Q2) 地域クラブ活動の目指すところは？

- 「地域の子どもは、学校を含めた地域で育てる」の理念のもと、持続可能なスポーツ・文化芸術活動の拠点を地域で築くように
- 生徒の多様なニーズに応じた活動を地域において安定的に実施できるように
- 地域において多世代と関わる機会が増え、地域活性化の一助になるように
- 教員の働き方改革や、教科指導等の充実が図られ、学校教育の質が向上するように
- 研修等によって指導者の質の向上に努め、安全・安心なクラブ活動が展開できるように

(Q3) 県の方針（移行時期や平日の活動）は？

- 原則として、休日・平日ともに全ての中学校部活動を新たな地域クラブ活動に移行します
- 国が示す令和7年度までの改革推進期に新たな地域クラブ活動の環境整備を鋭意進め、可能な限り早期の実現を目指しつつ、地域の実情に応じ、令和8年度末を目途に休日の中学校部活動の地域クラブ活動への移行完了を目指します
- 平日はできるところから移行を進め、難しい場合でも生徒の活動を保障しつつ、教員の勤務時間外の部活動指導を減らす工夫を検討・実施します

(Q4) 地域や保護者にできることは？

- 地域クラブ活動の指導者、又は協力者として「信州地域クラブ活動指導者リスト」への登録にご協力をお願いします。

※「信州地域クラブ活動指導者リスト」への募集案内はこちらから
https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/hokenko/chikiikou.html

- 保護者の皆様方には、クラブ運営に係る会費や練習会場までの送迎等の負担をおかけする場合がございます。各自治体に会費の低減化を求めるとともに、支援のあり方について研究してまいります

地域クラブ活動指導者 信州地域クラブ活動指導者リスト

安全な活動を見守って
いただける地域の皆様

募集！

あなたも地域クラブで 活躍してみませんか

「子どもの健全な成長をサポートしたい」情熱をもった方

詳しくは、信州地域クラブ活動指導者リスト設置要綱をご覧ください。

登録者には、県内のスポーツ・文化芸術活動の大会等に係る情報提供やオンラインによる研修（無料）を実施いたします

※ 既に地域クラブで指導、協力していただいている方も登録いただけます

指導者・協力者 登録はこちら



長野県教育委員会は、信がよす令和7年度までの改革推進期に新たな地域クラブ活動の環境整備を鋭意進め、可能な限り早期の実現を目指しつつ、地域の実情に応じ、令和8年度末を目途に休日の中学校部活動の地域クラブ活動への移行完了を目指しています

【信州地域クラブ活動指導者リスト 登録先】

【スポーツ関係】	【文化・芸術関係】
保健衛生課 学校体育係	学びの改革推進課 義務教育指導係
電話 026-235-7448	電話 026-235-7434
FAX 026-234-5169	FAX 026-235-7495
E-mail sports-gakko@pref.nagano.lg.jp	E-mail kyogaku@pref.nagano.lg.jp

学び応援キャラクター
信州地域クラブ活動指導者リスト

信州地域クラブ活動指導者リストについて

長野県では、令和6年3月に策定した「長野県地域クラブ活動推進ガイドライン」に沿って、子どもたちが生き生きとスポーツ・文化芸術に親しめる社会環境の構築を目指すとともに、教員の働き方改革による学校教育活動の質の向上を図ることを目的に、中学校の部活動の地域クラブ活動への移行を進めています。

信州地域クラブ活動指導者リストは、今後、地域が主体となって推進する地域クラブ活動への移行を進めるための支援策であり、指導者として、また安全な活動を見守っていただける地域の皆様と地域クラブをつなぐマッシングツールです。

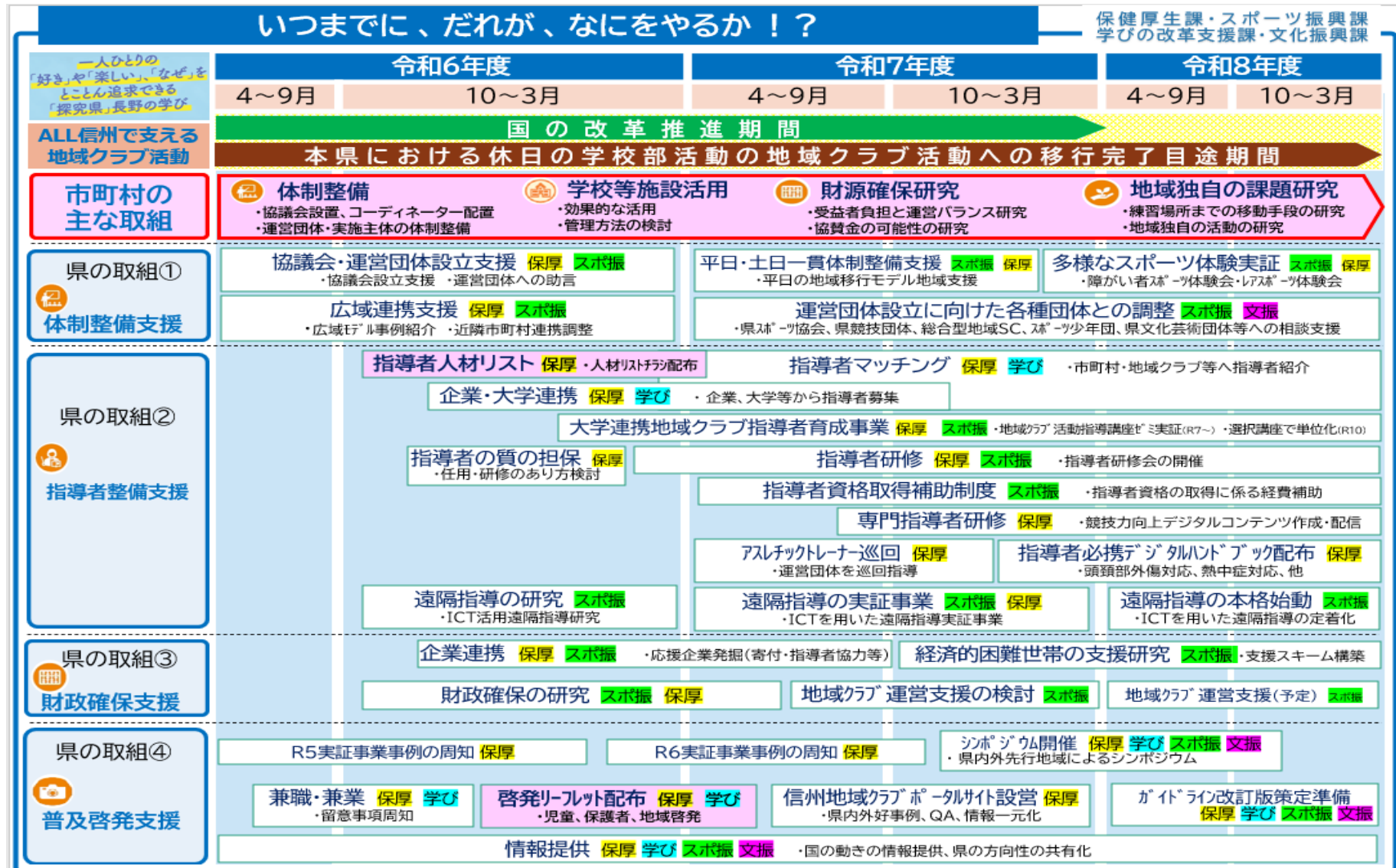


- Q. 誰でも登録できますか？
A. 18歳以上の方であれば、指導者資格や指導歴がなくても登録可能です。詳しくは「信州地域クラブ活動指導者リスト設置要綱」をご覧ください。
- Q. 登録の対象となる活動（競技種目や文化芸術活動）は、決まっていますか？
A. 登録する活動は特に限定いたしません。スポーツや文化芸術活動に関する活動で、地域の部活動にはない活動やレクリエーション的な活動など幅広い活動を想定しています。また、指導ではなく、子どもたちの活動を見守っていただける方も登録ください。
- Q. 指導者として採用された場合、指導報酬等はありますか？
A. 報酬額や交通費は、運営団体・実施主体等の規定により異なります。
- Q. 指導者・協力者への研修（無償・オンライン）とは、どのような内容ですか？
A. コーキングの基本、ハラスメント防止をはじめ、スポーツ医学・心理学等、多面的な内容を想定しています。
- 登録いただいた情報は、指導者や協力者を求める県内の市町村（国立学校含む）、地域クラブへ情報共有させていただきます。目的外での使用は一切いたしません。
- ※1 公開する情報は、登録した活動、年代、性別、居住エリア、指導可能なエリアのみとなります。

出典：長野県地域スポーツ・文化芸術活動推進連絡協議会資料

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

長野県 長野市

自治体名： 長野県長野市
担当課名： 長野市スポーツ部 スポーツ課
電話番号： 026-224-5083

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	834.85 km ²
人口	362,111 人 (R7.2.1現在)
公立中学校数	23 校
公立中学校生徒数	8,609 人
部活動数	179 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	設置済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

課 題	課題解決に向けた実践例
中体連大会のあり方	・ R5以降、参加資格を見直し ・ 外部指導者の参加制限の緩和
指導者確保	・ 希望する教職員や市職員を地域指導者に活用
活動場所の確保	・ 学校体育施設（小・中学校）開放の優先利用
意識改革 (教職員・指導者・保護者)	・ これからのスポーツ・文化芸術活動の考え方を理解 ・ 指導者コンプライアンス研修
学校・種目毎の異なる実情	・ 多様な方法での移行
活動場所への交通手段	・ 活動時間の変更（夕方→夜間） ・ 一旦帰宅せず活動場所へ移動 ・ 国の支援策を踏まえた検討
部活動と移行クラブの混在	・ (例)クラブの新入生説明会や壮行会等へ参加を認める

本市の地理的、自然環境的強みを生かしたスポーツ活動を増やすことで、部活動に代わる多様なスポーツ活動の機会を提供するとともに、拠点を分散することで、過密化を抑止し、安定した活動場所を確保したい。

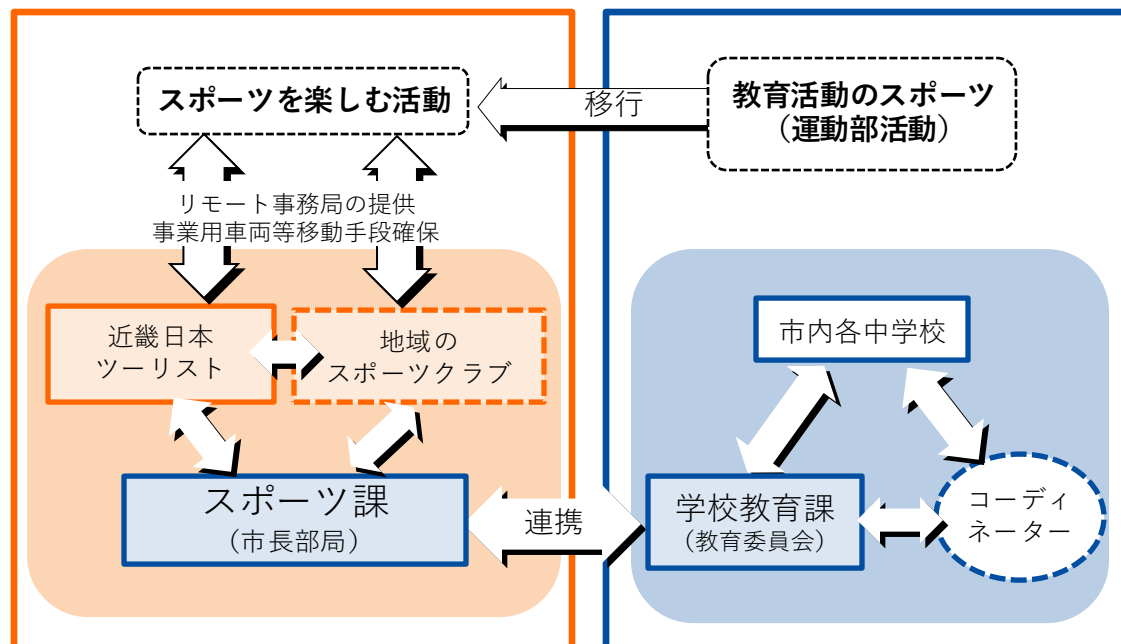
また、多くのスポーツクラブで課題となっている事務

局の体制整備について、第三者(事業者)が、請負う仕組み作りを進める。参加費の徴収から保護者との連絡・調整まで、多岐に渡る業務を事業者が請負うことで、クラブが指導に専念出来るとともに、保護者にとっても安心して子どもを預けられる環境を実証する。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

・コーディネーターと連携し、市内各中学校の移行状況の進捗管理・課題の整理、教職員・保護者・生徒等の説明会への出席、保護者等への情報発信、部活動関係者連絡会議の開催、学校や各部活と競技団体等が打合せする際の学校側の連絡調整など

◎首長部局

・スポーツ活動の環境整備、クラブの創設支援、競技団体等への地域移行の説明、各部活に受け皿となりうる地域スポーツクラブ等の紹介、競技団体等へ指導者紹介、市内の地域スポーツクラブ等の情報発信

年間の事業スケジュール

令和6年 4月	校長会説明（進捗状況報告） 中学校訪問（進捗状況の説明と課題共有）
令和6年 5月	市会校長会説明（進捗状況報告）
令和6年 6月	教頭会説明（学校施設優先利用の依頼）
令和6年 7月	第一回長野市部活動関係者連絡会
令和6年 8月	(株)戸隠、戸隠スキー学校打合せ（顔合せ）
令和6年 9月	補正予算の確保
令和6年10月	(株)近畿日本ツーリスト打合せ
令和6年11月	戸隠スキー滑走クラブ立上げ打合せ ・戸隠スキー学校 ・(株)戸隠 ・長野市
令和6年12月	戸隠スキー滑走クラブ募集打合わせ (一社)ながの北部スポーツクラブ打合せ 社会福祉法人アムール打合せ・配車依頼
令和7年 1月	戸隠スキー滑走クラブ保護者説明会開催 戸隠スキー滑走クラブ（第1～3回開催） 長野北部STC合同練習開催
令和7年 2月	戸隠スキー滑走クラブ（第4回開催） 第二回長野市部活動関係者連絡会 小学校来入生徒・保護者説明（23校）

参画団体

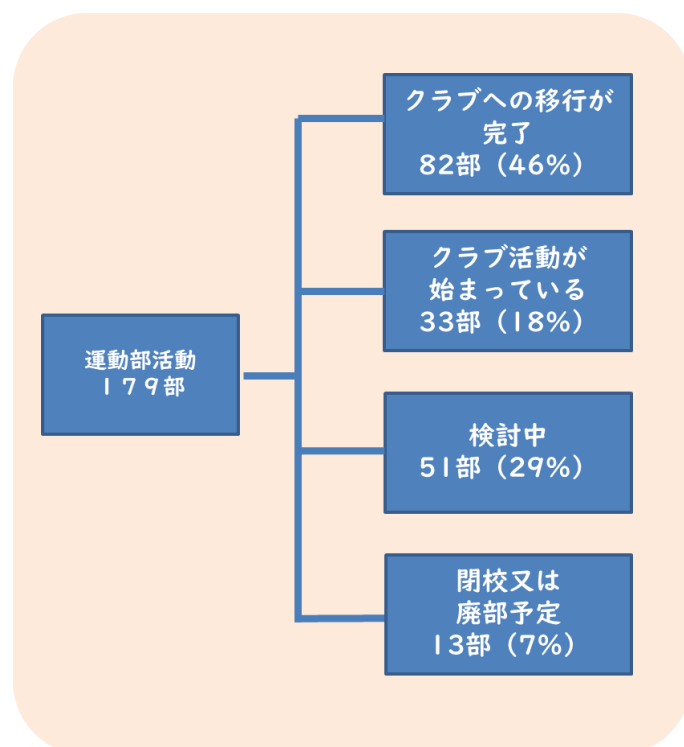
2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	23校	実施した地域クラブ総数	120 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		115部活
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 クラブ
全体の指導者数	240人	全体の運営スタッフ数	360人

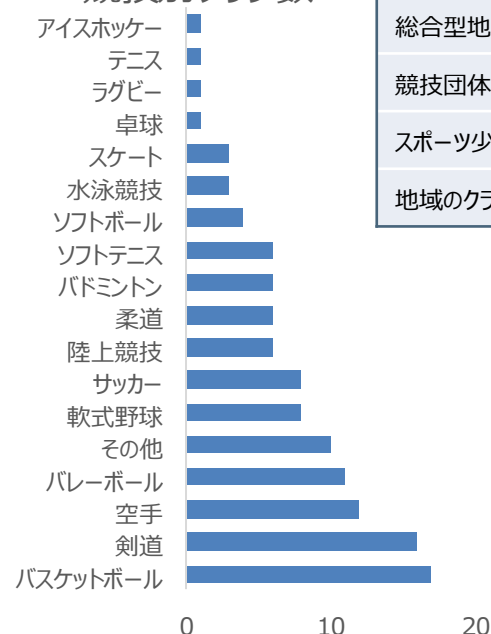
②部活動に関すること



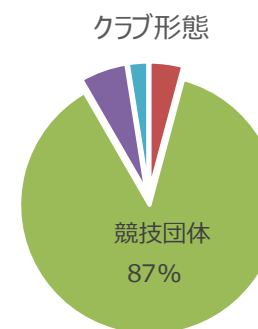
③クラブに関すること

競技名	クラブ数
陸上競技	6
水泳競技	3
バスケットボール	17
サッカー	8
軟式野球	8
バレーボール	11
ソフトテニス	6
卓球	1
バドミントン	6
ソフトボール	4
柔道	6
剣道	16
スケート	3
アイスホッケー	1
テニス	1
ラグビー	1
空手	12
その他	10

競技別クラブ数



クラブ形態	クラブ数
総合型地域スポーツクラブ	5
競技団体	105
スポーツ少年団	7
地域のクラブチームやプロスポーツチーム	3



→ 馬術、グライダー、チアリーディング、バウンドテニス、ドッジボール、少林寺拳法、ボクシング...

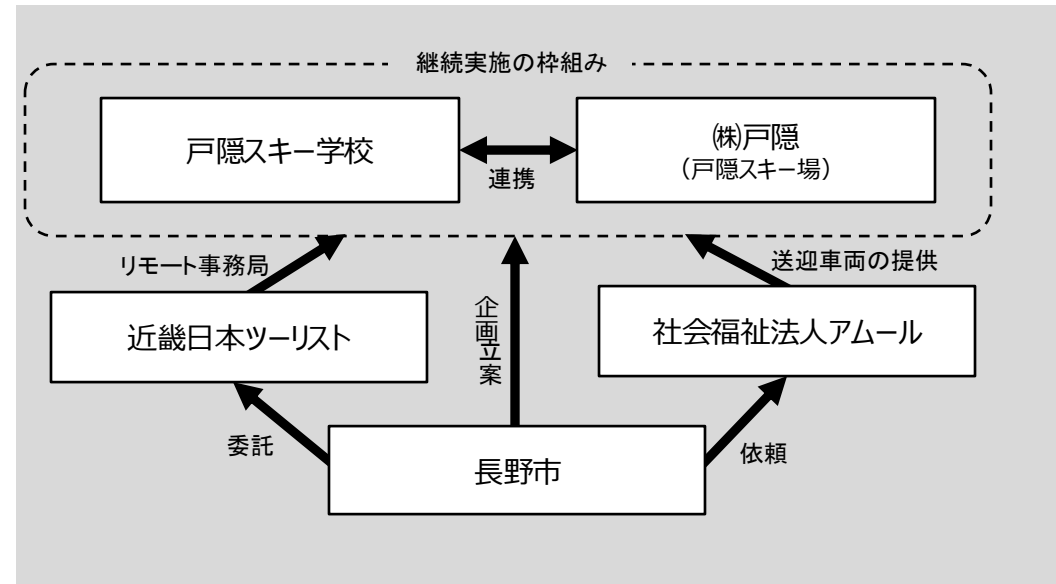
2.実証内容と成果

主な取組例

●戸隠スキー滑走クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	スキー
運営団体名	(株)戸隠、戸隠スキー学校
期間と日数	1月6日～2月2日 月3回程度（など）
指導者の主な属性	戸隠スキー学校
活動場所	戸隠スキー場
主な移動手段	社会福祉法人アムールの事業用車両
1人あたりの参加会費等（年額）	指導料：24,000円 リフト代：6,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 （受託事業者加入）

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 長野市：企画立案と運営体制の組成を行う。
- 戸隠スキー学校：指導及び生徒の安全管理を行う。
- (株)戸隠：会計管理（活動費の徴収及び「みらいハッ！キャンププロジェクト」清算業務）を行う。
- 近畿日本ツーリスト：事務局を担うとともに長野市をサポートして送迎から活動全般のコーディネートを行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○リモート事務局の活用：

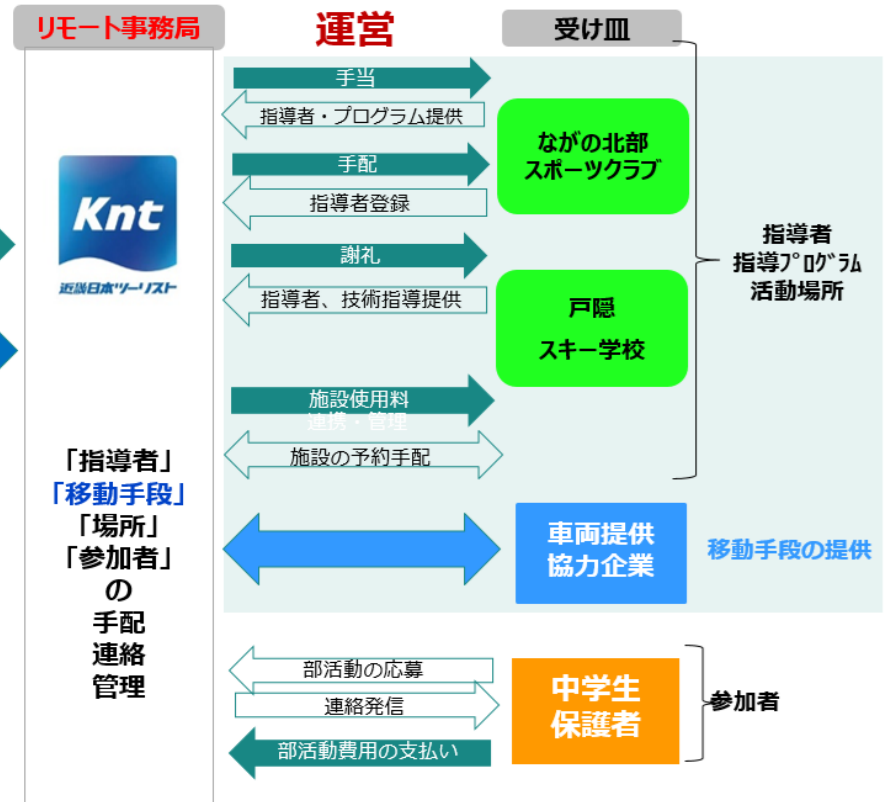
多くのスポーツクラブ等が課題として、抱えている事務局機能を第三者が一元的に請負う仕組みを考案・実践するため、「リモート事務局」を近畿日本ツーリスト（株）に委託し、その効果を検証した。

○現行クラブ等が行う事務局業務を民間へ委託。

保護者への連絡調整と指導者の派遣、会場の確保まで事務局に求められる全ての業務を「リモート事務局」として遂行した。本年度は、当該業務委託で実施し、参加者の移動を地域の協力会社で運用できる仕組みづくりを行った。

○事業用車両の発掘・連携・管理についても委託会社が担った。

長野市スポーツ課



受託事業者の具体的な動きの実績

【受託事業者（リモート事務局）】

- ・学校、地域クラブ参加者、指導者への連絡調整を実施 ・参加者への部費回収業務
- ・地域クラブ参加者の募集 & 保護者説明会の開催をオンラインにて実施

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組の成果

○地域クラブに参加した保護者からリモート事務局の活用については概ね良好な意見を得る事ができた。

参加者：

「事前説明会有り、不明な点を確認できたのが良かった。都度の連絡が丁寧だった。」

○送迎を担った協力会社からは、参加者との連絡窓口を担う事は難しく、事務局との連携について「連絡をこまめに頂けたことで動きやすかった。」と感想があった。

○地域クラブ運営（指導者・参加者の管理）を実証の中で本市として本来行う調整業務を民間企業に任せた事で、担当にとっての業務軽減にも繋がった。

今後地域クラブを増やしていく上でなくてはならない手段と考える。

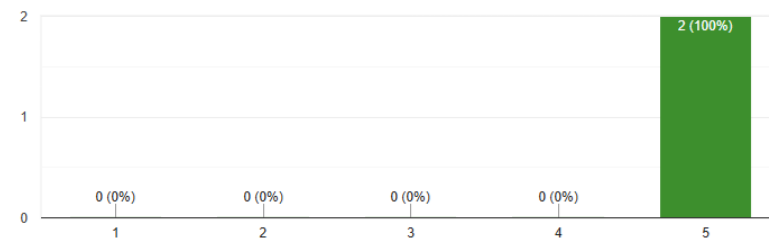
今後の課題と対応方針

地域クラブの運営を、受け皿となるクラブに全て任せる事はクラブにとっての負担となるので、今年度実証事業で行った座組をより拡大していきたい。
今後、受け皿となる地域クラブを増やしていく上では、より精度の高いサービスを民間事業者には期待したい。

KNT部活動運営事務局についての感想（地域クラブ参加者）

←とても不安

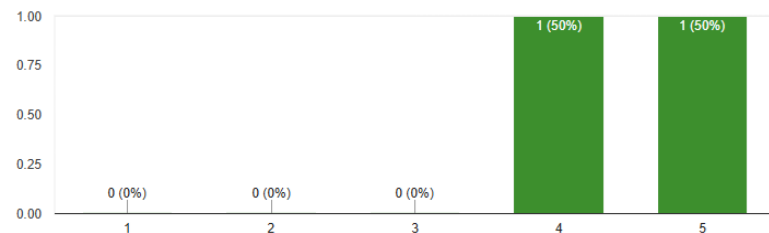
とても安心して任せる事ができた→



KNT部活動運営事務局についての感想（車両 協力会社）

←とても不安

とても安心して任せる事ができた→



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○本市が進める地域移行において、課題となっている移動手段を確保するため、実際に移動する中学生にとって、また費用負担をする保護者にとっても負担が少なく、効率的な運用が行え新たな仕組みを考案・実践し、その効果を検証した。

○デイサービス事業を展開する「社団法人アムール」から普段高齢者の移送を担っている車両を、地域クラブに参加する生徒の移動に活用した。

移動手段

- 事業用車両 協力会社 社会福祉法人アムール
※デイサービス事業を展開
- アルピコグループホールディングス 大型バスの手配

取組の成果

○事業用車両を提供したデイサービス事業を展開するアムールグループより「地域を支える取り組みに共感しこれからもご一緒させて頂きたい」との声をいただく。

事業用車両提供会社のメリットとしては「地域貢献」「会社のPR」であった。

今年度テスト的に実証した事業用車両の活用だが、来年度以降は本市が中心となり、地域から協力が可能な会社・団体の輪を拡大し、地域で参加者の送迎が成り立つ仕組みを整えていく。

出典:近畿日本ツーリスト 部活動運営事務局



【デイケアサービス事業社 提供車両】



【大型バスの活用】

事務局運営の方法

○事務局運営に関わる業務を「リモート事務局」として民間に委託

○事業用車両の提供に協力をしてくれる企業・団体を運営事務局が発掘。
送迎車両の管理（配車時間・場所）をリモート事務局が行った。

各自治体の役割

- 長野市スポーツ課
- ・協力会社との契約締結
（謝礼の算定と支払い）

出典:近畿日本ツーリスト 部活動運営事務局



【事業用車両 乗車案内】

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

コーディネーターが部活動を地域活動へ転換するための課題の整理やクラブとの調整等を進め移行を進めると同時に市長部局で受け皿の整備を行った。また市長部局では、受け皿となる地域スポーツクラブでの活動で抽出された次の3点の課題について、その解消に向けた仕組みづくりの実証を行った。

○多くのスポーツクラブ等が課題として、抱えている事務局機能を第三者が一元的に請負う仕組みを考案・実践し、「リモート事務局」を近畿日本ツーリスト（株）に委託し、その効果を検証した。

○移動の課題に対して、デイサービス事業を展開する「社団法人アムール」から普段高齢者の移送を担っている車両を地域クラブに参加する生徒の送迎に活用した。

○活動場所の分散化を目指し、中山間地域等で新たな活動の創出を図り、ニーズを把握するとともに効率的且つ経済的な運用が可能か検証するもの。

●成果の評価

○近畿日本ツーリストに委託したリモート事務局の活用については、協力会社・参加者共に概ね「安心して任せる事ができた」と意見をもらう事ができた。

クラブが課題としている事務局機能を民間企業が一元的に請負う仕組みについて、昨日する事が実践されたので、クラブへの説明・理解を丁寧に進めていく。

○事業用車両を活用した初めての試みだったが、協力会社にとってもメリットがある事がわかった。2種免許取得の課題においても次年度以降体制を整備していく。

○中山間地域で新たな活動の創出を目指した「戸隠スキー滑走クラブ」については、参加者から大きな満足を得る事ができた。

市街地からは送迎とセットにした内容とする事によって、申込時におけるハードルが下がるため、次年度以降送迎を担う協力会社を増やしていく事が必要になる。

●今後に向けて

リモート事務局については、今後地域クラブを拡大していく上で地域の受け皿となるクラブや送迎を担う協力会社の業務軽減に繋がる事と、参加者からも「安心して任せる事ができた」との声が多かった。地域移行を進める上で民間企業が事務局業務を一元的に担うスキームを、より多くの活動で実践し、していく。

本市としては、リモート事務局が担う役割を増やしていくと共に、事務局が対応する業務範囲や対応クラブ数を拡大し、地域のクラブや協力企業、保護者にとってより負担のない地域移行を目指していく。

事業用車両の活用については、協力企業を増やし、ニーズに対応できる体制を整備していく。

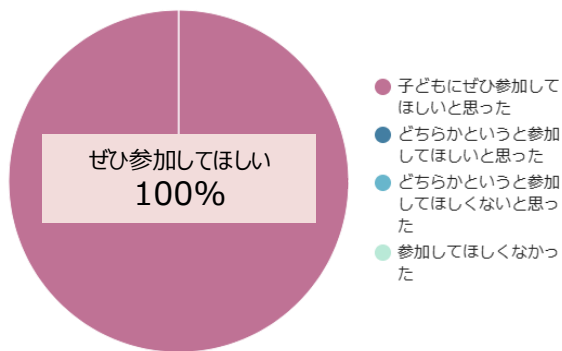
2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

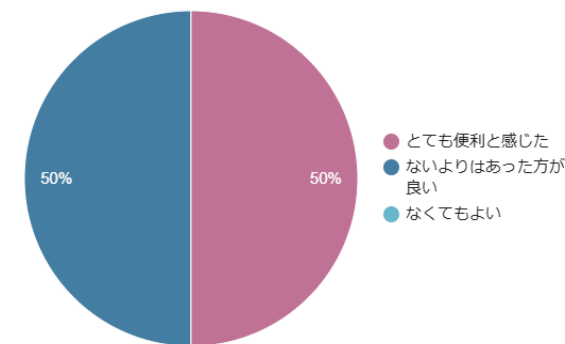
●アンケート結果

出典:近畿日本ツーリスト 部活動運営事務局

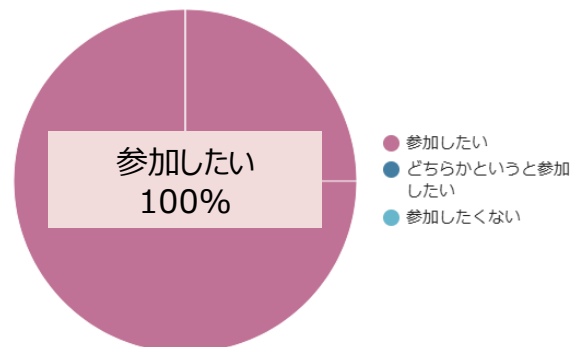
Q.【保護者】「戸隠スキークラブ」のお知らせを聞いた時のお気持ちは？



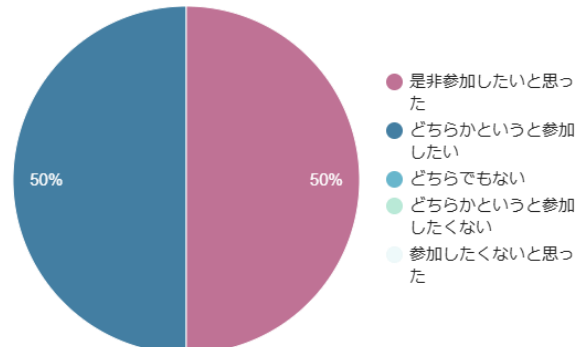
Q.【保護者】移動手段について事業用車両を活用した送迎を行いました。その利用の感想を教えてください。



Q.【生徒】来年度以降も「戸隠スキー滑走クラブ」ができれば入りたいと思いますか？



Q.【協力会社】事業用車両の協力依頼を聞いた時のお気持ちとして、最も近いものをお選びください。



●参加者の声

保護者

スキーが好きな子なのでぜひ参加して、上達して欲しい気持ちと、友達が出来ればいいと思い参加申し込みをさせて頂きました。

保護者

（顧問役の派遣について）

スキー以外のサポートを全てしていただけた事がありがたかったです。

生徒

パラレルターンなどのスキーの色々なことを教えてくれてありがとうございました!!

また教えてもらう機会があったらよろしくお願いします。

協力会社

部活動の地域移行は私たちとの仕事とは全く違うジャンルですが、なんとか実現させたい企画者の熱意を感じ、可能にするために私たちに出来ることがあれば協力していく

2.実証内容と成果③

広報資料

保護者向け説明会資料

長野市部活動地域移行実証事業

保護者説明会資料




実施スケジュール、実施会場

指導スケジュール

日付	時間	場所
1月6日(月)	10:00~15:30	戸隠スキー場
1月19日(日)	10:00~15:30	戸隠スキー場
1月26日(日)	10:00~15:30	戸隠スキー場
2月2日(日)	10:00~15:30	戸隠スキー場

【集合時間のご案内】

穂ノ井駅 集合時間：7:45 集合場所：西口 ※8:00出発
 長野駅 集合時間：8:15 集合場所：ユメリアバスパーク(東口) ※8:30出発

【確ノ井駅西口配車場所】
※ユメリアバスパーク

【長野駅東口配車場所】
※ユメリアバスパーク

このエリアに配車

【戸隠スキー滑走クラブ 保護者向け説明会資料】

出典:近畿日本ツーリスト 部活動運営事務局

参加者募集！

戸隠スキー滑走クラブ

活動日 1/6(月) 1/19(日) 1/26(日) 2/2(日)
 時間 10:00 - 15:30

部活動の地域移行に伴い、様々な活動にチャレンジするチャンスです。
 戸隠の雄大な自然の中でウィンタースポーツを楽しみながら、
 体力づくりやスキー技術を磨きましょう！！
 初心者から上級者まで歓迎です！それぞれのレベルごとに上達をサポートいたします。

場所 戸隠スキー場 市街地から参加の方は長野駅・穂ノ井駅へスキー場間の送迎無料

募集定員 先着15組(長野市内8名/戸隠周辺7名) **参加料** 1人 30,000円(リフト代込)
 内訳 指導代 24,000円=6,000円×4日
 リフト代 6,000円=1,500円×4日
 ※戸隠スキー場のシーズン券をお持ちの方はリフト代は不要です。
 ※用具のレンタルが必要な方は別途費用がかかります。
 ※参考：3/30までの1シーズン 16,500円(板・ストック・ブーツのセット)
 ※お支払い方法は長野市みらいリンクプロジェクトのポインでも可能です。

募集期間 12/25(水)まで

保護者説明会(オンライン開催)：12/26(木) 19時~20時
 保護者説明会のご案内を別途メールにてご案内します。

応募先
 近畿日本ツーリスト部活動運営事務局
 右記の専用フォームにてお申込みください。
 ※申込みは先着順となり、定員に達した時点で申込フォームは、
 クローズいたしますので、お早めにお申込みください。

お申込み専用フォーム
 コチラよりお申し込みください
 申込期間 2024年12月25日(水)まで

主催/長野市スポーツ課、戸隠スキー学校、株式会社戸隠

【戸隠スキー滑走クラブ 参加者募集チラシ】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）

出典:近畿日本ツーリスト 部活動運営事務局



【協力会社の送迎車両】



【集合場所での出席確認 顧問役(看護師)】



【参加生徒でお昼休憩をとる様子】



【スキーのコーチからレッスンを受ける様子】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）

出典:近畿日本ツーリスト 部活動運営事務局



【送迎用バス】



【集合して指導を受ける様子】



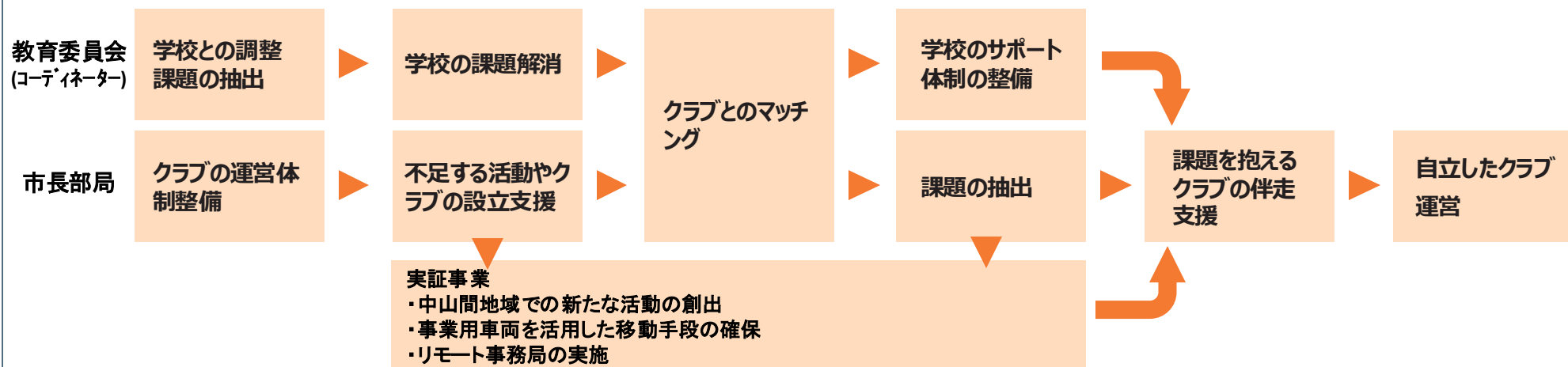
【顧問役が参加生徒の出欠をとる様子】



【生徒が帰宅時バスへ乗り込む様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

(株)戸隠

●経過

将来的なスキー人口の増加を目的に参画。

●実施にあたって生じた課題

スキー場の運営以外に人員を割くことは難しい。

●実施内容、工夫した点 等

スキー場経営の延長で行える会費徴収業務を担当した。

●ステークホルダー

戸隠スキー学校

●経過

中学年代へのスキー活動の機会を提供するため参画

●実施にあたって生じた課題

人材が不足しており、多くの業務をこなすことは難しい。

●実施内容、工夫した点 等

参加者数が想定できない初年度は、指導に専念した。

●ステークホルダー

(一社)ながの北部スポーツクラブ

●経過

複数校での合同練習に移動手段が必要であり事業に参画

●実施にあたって生じた課題

バス駐停車場所の確保等

●実施内容、工夫した点 等

複数校の合同練習に繋げ、活動範囲を広げた。

●ステークホルダー

社会福祉法人アムール

●経過

社会貢献活動として地域へ還元するために参画

●実施にあたって生じた課題

白タク営業になるため、人件費分の対価を受けることができない。

●実施内容、工夫した点 等

利用の予定ない事業用車両とドライバーを調整し提供した。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

		令和4年度						令和5年度						令和6年度						令和7年度						令和8年度																							
		9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8												
国の検討会議の提議で示された市町村の取組例		部活動改革推進期間																														検証し、更に改革																	
		・生徒・保護者・教職員のニーズと意向を把握 ・スポーツ担当部署、スポーツ団体、教育委員会、学校関係者等による協議会の設置 ・必要な経費や人員等を検討、協議																		・地域におけるスポーツ環境の整備充実を本格的に進め、生徒にふさわしいスポーツ活動を着実に増加																													
ゴールイメージ		役割分担・推進日程の検討・						移行方法の検討期（競技・学校）						段階的な移行期（競技・学校）						完全実施→アップデート期																													
運動部活動	市教委	1月 関係者連絡会 推進計画検討						6月 関係者連絡会 進捗状況管理						12月～1月 関係者連絡会 進捗状況管理						6月 関係者連絡会 進捗状況管理						12月～1月 関係者連絡会 進捗状況管理						6月 関係者連絡会 進捗状況管理																	
	中学校	12月 教職員対象指導者意向調査						4月 中学校長会 方向性説明						4月～3月 経済的に困難な家庭への支援や中山間地等への支援を検討						4月 中学校長会 現状と計画						4月～3月 経済的に困難な家庭への支援や中山間地等への支援を検討						4月 中学校長会 現状と計画						4月 中学校長会 現状と今後の方向											
		4月～3月 学校訪問支援（基本的な考え方 説明）						4月～3月 コーディネーターによる学校訪問支援（地域やスポーツ団体との連携支援、移行検討の支援）						4月～3月 コーディネーターによる学校訪問支援（地域やスポーツ団体との連携支援、移行検討の支援）						4月～3月 コーディネーターによる学校訪問支援（地域やスポーツ団体との連携支援、移行検討の支援）						4月～3月 コーディネーターによる学校訪問支援（地域やスポーツ団体との連携支援、移行検討の支援）						全体的な状況を踏まえ、更に支援																	
		新入生及び保護者への現状説明（随時）						部活動の現状把握						【学区内】にあるクラブへの移行ができる場合 ①既存クラブの関係者との課題検討 → 準備が整ったところから段階的に地域移行												【学区内】に移行できるクラブがない場合 ②市内他地区のクラブへの移行を検討（市スポーツ課が情報提供） → 準備が整ったところから段階的に地域移行 ③（競技団体等の一員として関係者が検討することを想定） 新たなクラブの設立により移行を検討（コーディネーター、市スポーツ課が支援） → 準備が整ったところから段階的に地域移行						原則部活動の発展的解消		【地域移行が完了した学校】移行後の課題を整理、改善 【地域移行が未完の学校】引き続き、課題検討を継続															
スポーツ団体	スポーツ課	クラブチームデータ移行期間						総合型クラブへの負担金交付						11月 ヒアリング ↓ クラブチームデータ集約（バージョンUP） ↓ 3月上旬 データ学校配布						総合型クラブへの負担金交付						11月 ヒアリング ↓ クラブチームデータ集約（バージョンUP） ↓ 3月上旬 データ学校配布						総合型クラブへの負担金交付						11月 ヒアリング ↓ クラブチームデータ集約（バージョンUP） ↓ 3月上旬 データ学校配布						総合型クラブへの負担金交付					
	長野市スポーツ協会	11月 ヒアリング ↓ クラブチームデータ集約 ↓ 3月上旬 データ学校配布（新入生対応）						競技団体への負担金交付						競技団体への負担金交付						競技団体への負担金交付						競技団体への負担金交付						競技団体への負担金交付						競技団体への負担金交付											
	競技団体																																																
	総合型地域スポーツクラブ							負担金受領→活動、受け皿整備						負担金受領→活動、受け皿整備						負担金受領→活動、受け皿整備						負担金受領→活動、受け皿整備						負担金受領→活動、受け皿整備						負担金受領→活動、受け皿整備											
	プロスポーツチーム	受け皿となりうる活動計画						負担金受領→活動、受け皿整備						負担金受領→活動、受け皿整備						負担金受領→活動、受け皿整備						負担金受領→活動、受け皿整備						負担金受領→活動、受け皿整備						アンダー世代の育成・指導者育成											
企業等		アンダー世代の育成						アンダー世代の育成・指導者育成						アンダー世代の育成・指導者育成						アンダー世代の育成・指導者育成						アンダー世代の育成・指導者育成						アンダー世代の育成・指導者育成						アンダー世代の育成・指導者育成											
		スポーツ団体と企業との連携による地域移行推進（産業の創出）																														スポーツ団体と企業との連携による地域移行推進（産業の創出）																	

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

長野県 松本市

自治体名：長野県松本市

担当課名：教育委員会 教育政策課

電話番号：0263-33-3980

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	978.47 km ²
人口	234,740 人
公立中学校数	19 校
公立中学校生徒数	5,645 人
部活動数	124 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

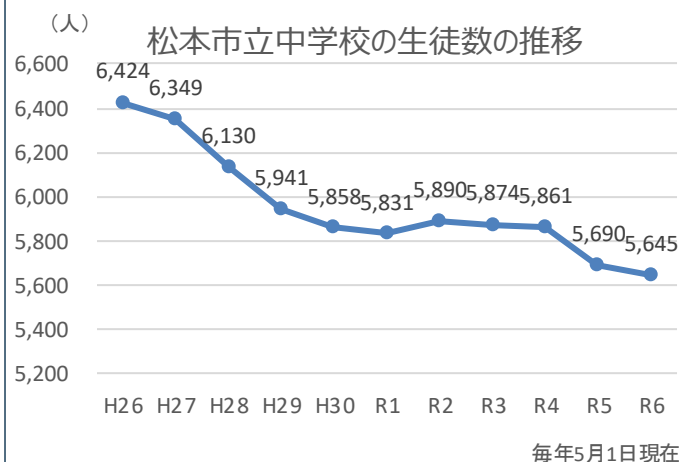
令和4年度に小学5年生～中学3年生の児童生徒・保護者及び中学校教師を対象にアンケート調査を実施。生徒のニーズは「楽しむこと」「自分にあった指導」など「参加する活動を主体的に選択できること」が多かった。

令和5年度に地域クラブのモデルケースを実施し、検討協議会の設置と推進計画の策定を進め、本市の目指す将来像と移行スケジュールを定めた。

本市では、中学生自身が参加する活動を主体的に選択するために、部活動の枠に捉われず、

地域の多様な団体が様々な活動を展開することを目指し、移行期間における集中的・一体的な支援を実施している。

国と県のガイドライン（休養日、活動時間、規約・運営方針・活動計画の策定・公表、保険加入）に沿った民間団体を「まつもと子どもチャレンジクラブ（通称まつチャレ）」として公表。新しい発想での活動展開を進めるにあたり、多くの関係者が抱く「部活動の当り前」から意識を転換していくことが必要と感じている。



『松本市教育要覧』より作成



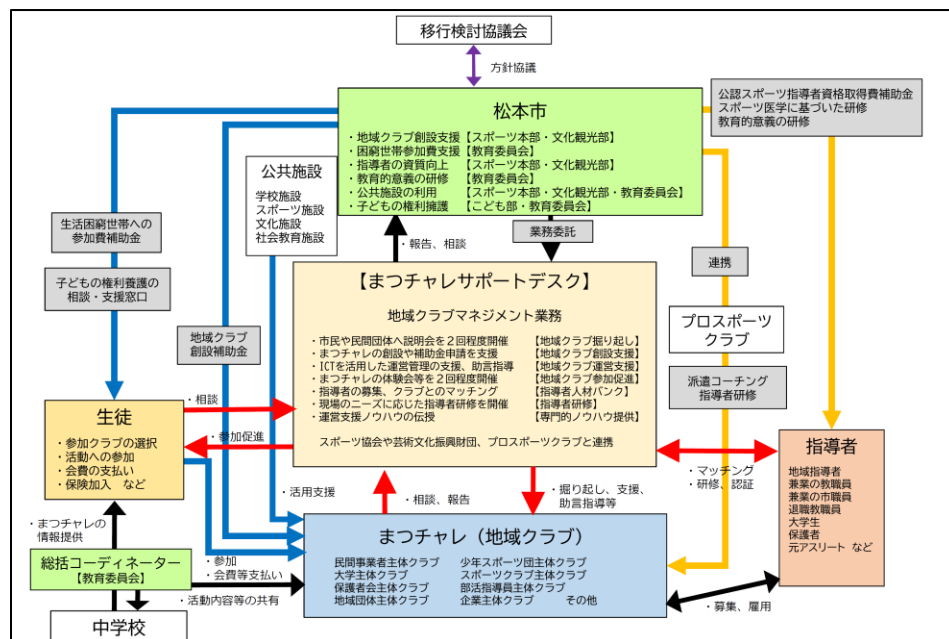
令和2年度アンケート調査より

スポーツ庁

年間の事業スケジュール

令和6年6月	・プロスポーツ派遣コーチングを実施、以降計10回実施
8月	・第1回移行検討協議会を開催 ・国・県のガイドラインに沿った地域クラブの名称を「まつチャレ」に決定
9月	・地域クラブ創設支援補助金、地域クラブ活動参加者支援補助金を施行 ・まつチャレサポートデスクを開設（まつチャレの届出、コールセンターの設置、指導者人材バンクなど） ・まつチャレ通信の発行、以降月1発行 ・市公式YouTubeで説明動画を配信、以降計4本を配信
10月	・第2回移行検討協議会を開催
11月	・まつチャレのロゴマーク正式決定
12月	・第3回移行検討協議会を開催 ・市民向け説明会を開催 以降計2回開催 ・学校開放の見直し方針案を教育委員会で協議

令和7年1月	・学校開放の見直し方針を、利用団体等に周知
2月	・指導者研修を開催 以降計11回開催
3月	・第4回移行検討協議会を開催 ・アーバンスポーツ体験会を開催



◎教育委員会

- ・教育政策課…全体統括、移行検討協議会の開催、国等との折衝・調整
- ・学校教育課…学校部活動との調整、学校施設開放の見直し、教育的意義の研修
- ・生涯学習課…文化・芸術活動の展開

◎首長部局

- ・スポーツ事業推進課…スポーツ活動の展開、指導者の確保・研修
- ・文化振興課…文化、芸術活動の展開、指導者の確保・研修

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること ※市は、国・県のガイドラインに合致する民間クラブを「まつもと子どもチャレンジクラブ(通称まつチャレ)」として公表し、各クラブの運営に関与していない

中学校数	19校	実施した地域クラブ総数	26クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		16クラブ（16部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		10クラブ
全体の指導者数	153人	全体の運営スタッフ数	把握していない

②各クラブに関すること ※「まつチャレ」として公表するクラブ

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
SHOHOKU WINGS	民間クラブ	バスケットボール	週1回	休日2時間程度	把握していない	R7.2～	本郷体育館	3人	把握していない	300円/回	中体連、協会主催大会
山鳩クラブ	民間クラブ	バドミントン（新）	週3回	平日2時間、休日3時間	把握していない	R7.2～	旭町小学校ほか	3人	把握していない	入会金1,000円 月会費2,000円	中体連
上高地ラグビースクール	民間クラブ	ラグビー（新）	週1回	休日9時から2時間	把握していない	R7.2～	波田扇子田運動公園	6人	把握していない	月会費500円	協会主催大会
S.Basketball Club	民間クラブ	バスケットボール	週5回	平日19～21時 休日18:30～20:30	把握していない	R7.2～	菅野中学校	6人	把握していない	入会金5,000円 500円/回	協会主催大会
Shonan Yellow Peace	民間クラブ	バスケットボール（新）	週3回	平日19～21時 休日2時間	把握していない	R7.2～	寿台体育館ほか	5人	把握していない	入会金2,200円 月会費3,000円	中体連、協会主催大会
鎌田少年野球団中等部 松本セントラルBBC	スポーツ少年団	軟式野球	週5回	平日16:30～18:30 休日8～11	把握していない	R7.2～	両島浄化センターグラウンドほか	5人	把握していない	月会費3,000円	中体連
鎌田FC	民間クラブ	サッカー	週1回	休日8～10時	把握していない	R7.2～	鎌田中学校ほか	6人	把握していない	入会金5,000円 月会費3,500円	中体連

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること ※「まつチャレ」として公表するクラブ

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
梓川少年剣道教室	スポーツ少年団	剣道	週2回	平日1時間、休日2時間	把握していない	R7.1～	梓川体育館	10人	把握していない	月会費1,200円	中体連
M.B.C.(松本ベースボールクラブ)	民間クラブ	軟式野球	週4回	平日2時間、休日3時間	把握していない	R7.1～	開成中学校ほか	4人	把握していない	月会費3,000円	中体連、協会主催大会
FCSURGE(波田FC)	民間クラブ	サッカー	週1回	休日9～12時	把握していない	R7.1～	波田中央グラウンドほか	6人	把握していない	入会金5,000円 月会費3,000円	中体連、協会主催大会
EYL FC	スポーツ少年団	サッカー（新）	週4回	平日16:50～18:50 休日10～12	把握していない	R7.1～	松島中学校ほか	2人	把握していない	入会金10,000円 月会費5,000円	中体連、協会主催大会
チーム六等星バドミントンクラブ	民間クラブ	バドミントン（新）	週2回	平日19～21 休日13～16	把握していない	R7.1～	源池小学校ほか	9人	把握していない	月会費4,000円	中体連
梓川男子バスケットボールクラブ	スポーツ少年団	バスケットボール	週2回	平日19～21 休日9～11	把握していない	R6.11～	梓川中学校ほか	5人	把握していない	入会金3,000円	中体連
梓川FC JY	スポーツ少年団	サッカー	週2回	平日19～21 休日9～12	把握していない	R6.21～	梓川中学校ほか	7人	把握していない	入会金2,500円 月会費3,000円	中体連
まつもとTFC	競技団体	陸上競技(新)	週1回	休日8～11	把握していない	R7.1～	岡田ウオーターフィールドほか	20人	把握していない	入会金2,000円 月会費500円	中体連
まつもと城東バドミントンクラブ	民間クラブ	バドミントン（新）	週3回	平日17～19 休日13～16	把握していない	R6.12～	本郷小学校ほか	18人	把握していない	入会金6,000円 月会費6,500円	中体連
Always	民間クラブ	バスケットボール	週3回	平日17～19 休日3時間	把握していない	R6.12～	高綱中学校	3人	把握していない	入会金1,000円 月会費3,000円	協会主催大会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること ※「まつチャレ」として公表するクラブ

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
VCMAS	民間クラブ	バレーボール （新）	週3回	平日19～21 休日 17:30～20:30	把握していない	R5.1 1～	鎌田小学校	5人	把握していない	入会金3,000円 月会費4,000円	協会主催大会
あづみ野 ジュニア卓球 クラブ	スポーツ 少年団	卓球	週2回	平日2時間 休日3時間	把握していない	R5.1 1～	梓川体育館	5人	把握していない	入会金1,400円 月会費2,000円	協会主催大会
シャルマン・ラ グビー・アカ デミー	民間クラブ	ラグビー（新）	週3回	平日19～21 休日 10:30～12:30	把握していない	R5.1 1～	扇子田公園 運動広場ほか	4人	把握していない	月会費5,000円	協会主催大会
TEAM Rugos	競技団体	陸上競技 （新）	週2回	平日2時間 休日3時間	把握していない	R5.1 1～	梓川小学校 ほか	1人	把握していない	入会金3,000円 月会費4,000円	中体連
NPO LINKS	民間クラブ	卓球	週2回	平日19～21 休日19～21	把握していない	R5.1 1～	旭町中学校	2人	把握していない	0円	中体連、協会 主催大会
FC松本 Norte United	民間クラブ	サッカー	週1回	休日3時間	把握していない	R5.1 1～	旭町中学校 ほか	4人	把握していない	入会金5,000円 月会費3,500円	中体連
松本北東 M-ONEクラブ	民間クラブ	野球	週1回	休日3時間	把握していない	R5.1 0～	清水中学校 ほか	5人	把握していない	入会金3,000円 月会費2,500円	中体連、協会 主催大会
スワンTTC	民間クラブ	卓球	週1回	休日9～12	把握していない	R5.1 0～	清水中学校	3人	把握していない	入会金3,000円 月会費1,500円	協会主催大会
サンズ バス ケットボール クラブ	民間クラブ	バスケットボール	週1回	休日3時間	把握していない	R5.1 0～	山辺中学校 ほか	6人	把握していない	0円	中体連

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 3月29日（土）に、次年度の地域クラブ活動開始に向け一般社団法人アーバンスポーツ信州と連携し、アーバンスポーツ体験会の開催を決定

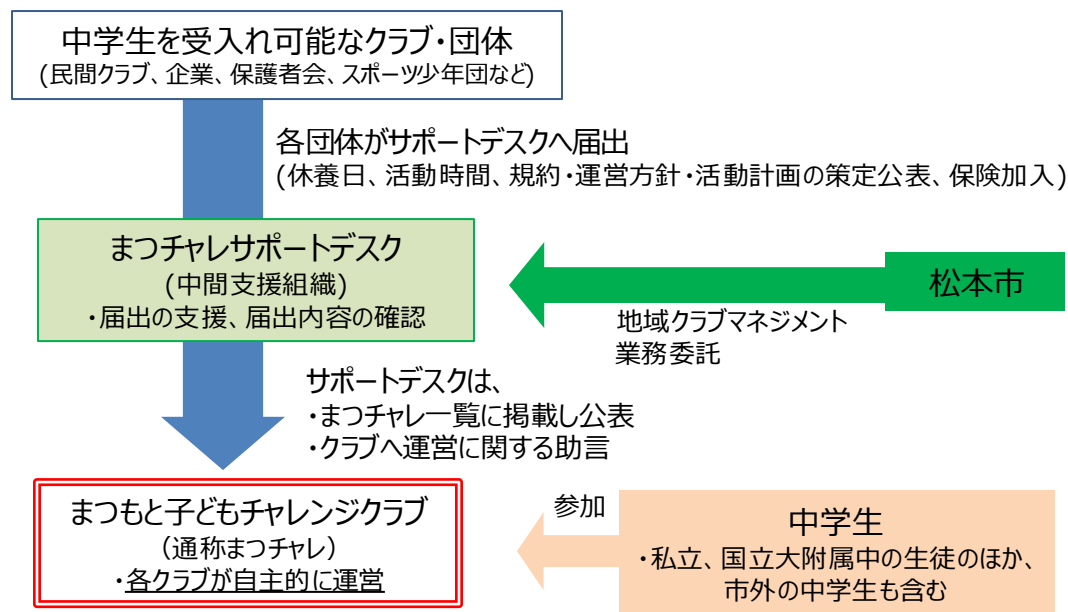
2.実証内容と成果

主な取組例

● まつもと子どもチャレンジクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、軟式野球、バスケットボール、バドミントン、ラグビー、剣道、陸上競技、バレーボール、卓球
運営団体名	民間クラブ、スポーツ少年団、競技団体などが、個々に運営主体となる
期間と日数	R5.10以降に、順次各クラブで実施
指導者の主な属性	民間指導者、教員など
活動場所	市内学校施設、スポーツ施設など
主な移動手段	自転車、保護者の送迎など
1人あたりの参加会費等（年額）	各クラブが独自に設定
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 ・生徒1人あたり：800円/年 ・指導者1人あたり：1,850円/年

● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

※市が提示した規約例を参考に、各クラブで設定。以下は、市が示す規約例

- 会長 1名
- 副会長 1名
- 会計 2名
- 運営委員 必要な人数

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

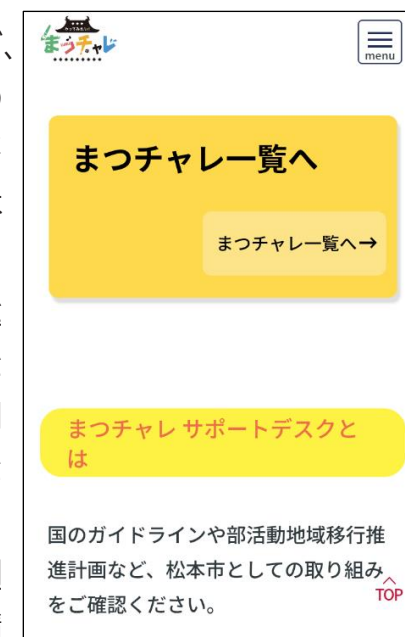
●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○移行検討協議会を年4回開催し、地域クラブの要件や支援策等を検討
○総括コーディネーター1名を配置。
学校と地域クラブとの連携等を進める
○地域クラブマネジメント業務を民間事業者へ委託。地域クラブを掘り起こし、規約の作成など創設・運営を支援
○地域クラブ創設支援補助金として、まつチャレとして市に届出し活動を実施する団体に、初期費用等にかかる経費の一部を補助【実証事業対象外経費】

取組の成果

○移行検討協議会を年4回開催。PTAや市スポーツ協会、大学関係者など、多様な団体との連絡調整や、具体的な支援策の検討を進めた。協議会での協議により、多くのクラブが創設されるために、まつチャレ(地域クラブ)の登録要件は国・県のガイドラインを遵守することに留めて、さらに、市への許認可制ではなく届出制にすることで、市やクラブの事務手続きの簡素化を図った
○地域クラブマネジメント業務により、Webサイト「まつチャレサポートデスク」を開設。各種問合せに対応するとともに、規約作成など39件のまつチャレ創設を支援し、うち27件がまつチャレとして活動を開始した。また、市民説明会を2回開催し、多様な団体に対して、まつチャレとして中学生を受入れるよう周知を図った
○9月に地域クラブ創設支援補助金を施行。地域クラブ活動にかかる初期費用に対し1年目10万円、2年目5万円を補助。16件のまつチャレから申請あり



Webサイト「まつチャレサポートデスク」

コーディネーターの具体的な動きの実績

随時、中学校を訪問し、学校長や部活部顧問との連絡調整のほか、保護者会、校長会などでの説明を実施。部活動をベースにした保護者会や部活動指導員などが運営主体となるまつチャレ(地域クラブ)の創設をコーディネート。その結果、部活動から移行するまつチャレが16件創設された。

今後の課題と対応方針

○移行完了後は、生涯スポーツとして他年代の活動と同様になることから、まつチャレの届出などをいつまで行うかなど、移行後の検討が必要
○運営主体が様々であることから、共通運営マニュアルの策定に至らなかった。次年度に引き続き策定を進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項	人材バンクの人数	マッチングなど	種目	資格有無
・地域クラブマネジメント業務として、指導者人材バンクを開設	9名	・まつチャレとのマッチング実績は0件	・サッカー	・中高教員免許
・教育委員会による学校部活動の教育的意義を伝える研修を実施	人材バンクの年齢構成	・部活動保護者会から、まつチャレ創設の前相談として紹介依頼が1件。教員の異動を見据え、地域指導者を探す保護者会のニーズがある	・軟式野球	・サッカー4級審判員
・プロスポーツクラブと連携した指導者研修を実施	10代 0名 20代 1名 30代 1名 40代 1名 50代 3名 60代以上 3名		・卓球	・PMBIA公認レベル1インストラクターなど
・公認スポーツ指導者資格等の取得・登録費用を補助【実証事業対象外経費】			・バレーボール×2	・登録者9名のうち、8名が資格保有者、1名が元資格保有者
			・マウンテンバイク	
			・バスケットボール	
			・ラグビー	
			・空手道、合気道	

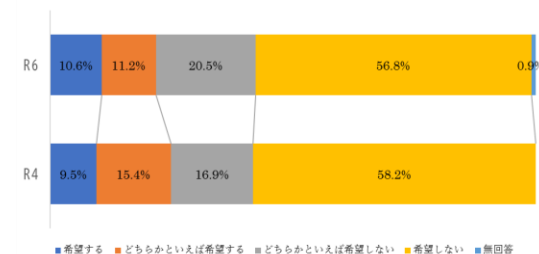
取組の成果

・R6.9実施のアンケート調査により、回答した331人の中学校教職員(回答率62.3%)のうち、地域クラブでの指導を「希望しない」「どちらかといえば希望しない」が、休日で77.3%、平日で81.6%となり、いずれもR4調査時より微増している。教員が指導者となることを前提にはできない

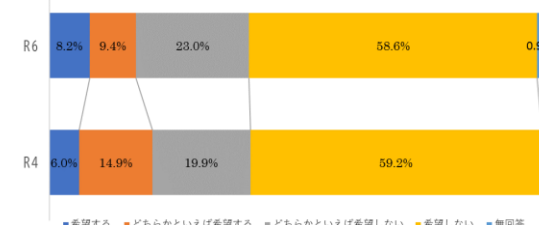
・人材バンクへの登録について、関係団体や各施設等へチラシにより周知を行なったが、登録者数が伸びなかった。そもそも、フリーの指導者は想定以上に少ないと考えられる。

・今後は、「指導者は少ない」という前提条件を持ちながら、見守りスタッフなど多彩なかたちで関与してもらえる人材を確保する必要がある。

地域クラブの指導希望
【休日】



地域クラブの指導希望
【平日】



令和6年度アンケート調査より

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

①部活動の教育的意義

- ・講師は教育委員会指導主事
- ・部活動が大切にしてきた教育的意義と、中学生に対する指導方法を行動科学の視点から理解するもの

②女子生徒の理解と支援

- ・講師は本郷由貴氏（国立スポーツ科学センター）
- ・女子中学生の心身の不調と支援方法を理解し、実践に繋げるもの

③プロスポーツクラブ指導者研修

- ・講師は、柳沢裕一氏（信濃グランセローズ監督）、山本憲吾氏（VC長野トライデンツJr.女子監督）、渡辺智之氏（信州ブレイブウォリアーズアカデミー運営部長）、鐵戸裕史氏（松本山雅FC育成部長）
- ・安全・健康面の配慮やコンプライアンス
- ・選手の技術力を高めるための指導ポイントや練習メニュー

指導者研修の参加実績

- ①部活動の教育的意義 開催日：2/14、2/19 参加人数：10人
- ②女子生徒の理解と支援 開催日：3/1 参加人数：16人
- ③プロスポーツクラブ指導者研修 開催日：3/2、3/9、3/16、3/21
参加人数：24人 ※3/3現在

受講者の声

- ・一方的な指導ではなく、子どもが自ら目標を設定し、その達成を指導者がサポートすることが大切だと感じた
- ・教員が行動分析学による接し方を意識していることが分かり参考になった
- ・ワークショップで他の種目の指導者と意見交換でき、新しい発見があった

公認スポーツ指導者資格取得補助金【実証事業対象外経費】

対象経費	対象資格	補助率	補助限度額
受講費用	(1) JSPOコーチ1及びスタートコーチ (2) JBA及びJBA公認C級コーチ	2分の1以内	20,000円
登録料	JSPOコーチ1及びスタートコーチ JBA及びJFA公認C級コーチ	8分の1以内 2分の1以内	2,500円

R6実績：受講費用4件、登録料4件

今後の課題と対応方針

- ・指導者研修への参加は、参加者が伸び悩んだ。次年度は、研修参加者を指導者に限定せず保護者や一般市民にも広げることで、見守りスタッフなど関係人材の育成や、市民への理解促進につなげたい
- ・次年度は、新たに、医療関係者と連携して、スポーツ医学に基づく安全管理の研修を開催予定

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・市内で活動するプロスポーツクラブと連携し、指導者研修と派遣コーチングを実施
- ・部活動で実施する8種目の競技団体代表者とプロジェクトチーム会議を組織し、3回の会議を開催
- ・企業の参画促進のため、松本青年会議所と連携し、3/4に研修会を実施。約80名が参加

取組の成果

- ・プロスポーツクラブによる指導者研修については、P10に記載済み
- ・プロスポーツクラブによる派遣コーチングでは、中学生とその指導者がプロの指導を受けられる機会となり、競技性を高めることができた
- ・プロジェクトチーム会議では、部活動の種目を継続して実施するための方法等を検討
- ・松本青年会議所とは、「部活動地域移行を地域の活力向上につなげる」という意図を持って連携を進めた。次年度も継続して連携し、企業による地域クラブ創設や外部資金獲得の仕組みづくりを進める



松本青年会議所主催研修会

プロスポーツクラブ派遣コーチング

開催日	講師	会場	参加人数
8/5	Jr監督、事務局	エア・ウォーターアリーナ松本	54人
11/4	Jr監督、選手	内田体育館	20人
1/13、14	コーチ、選手	エア・ウォーターアリーナ松本	113人
11/24	コーチ、選手	開成中学校ほか	93人
12/14	コーチ、選手	菅野中学校ほか	30人
2/23	コーチ2名	里山辺体育館	30人
3/1	コーチ2名	梓川体育館	15人
3/29予定	調整中	高綱中学校ほか	—
3/8、9、15予定	松本山雅FC	菅野中学校ほか	—

今後の課題と対応方針

- ・プロスポーツクラブとの連携事業は、地域クラブ活動の質の向上に直結するため、継続実施する
- ・企業・大学に対して、具体的な連携のかたちやメリットを提示できず、連携を進められなかった。引き続き検討を進め、連携を図る

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 近隣市町村の生徒が、まつチャレに参加することを可能とし、実際に、他市町村から参加していることを確認
- 隣接する山形村・朝日村と協議を重ね、「地域クラブの要件」「クラブ・生徒への支援策」を、各自治体で同一の制度とした

取組の成果

- まつチャレの「シャルマン・ラグビー・アカデミー」では、本市以外に、山形村・安曇野市の生徒が参加し、本市の施設が予約できない場合は、山形村の施設を利用するなど、広域的な活動を実施している
- 活動場所の確保と、生徒の交流機会の拡大に効果的だった
- 山形村・朝日村では、本市と同じ内容で、地域クラブの要件、地域クラブ創設支援補助金、地域クラブ参加者支援補助金を実施する予定。そのため、1市2村の生徒とクラブは、同じ支援が受けられ、広域的な活動実施・参加が可能となる



長野県ホームページより転載

今後の課題と対応方針

- 他市とも市域を越えた生徒の参加について協議したが、クラブ運営に公費を充てるので他市からの参加は不可とのことで、不調に終わった
- 本市のまつチャレにおいて、引き続き、他市町村からの生徒の参加を認めることで、生徒の交流拡大と、自立的なクラブ運営を進めていく

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○まつチャレ及び地域クラブ創設支援補助金の要件に、実施種目や参加者の限定を設けず、部活動にない種目や、他年代と一緒にの活動などが実施された

○すべてのまつチャレの運営方針を公表することで、生徒が、競技志向かレク志向かで参加クラブを選択することが可能になった

○まつチャレの「always」で、競技志向のチャンピオンコースとレク志向のエンジョイコースの2つの活動を実施。その活動を市公式YouTubeで配信し広く周知した

○小学生と一緒に活動するなど、他年代との交流を促進した

活動の詳細【always】

参加人数	15人(中学生11人、小学生4人)	指導者数	3人
属性	部活動指導員が部活動をベースに創設した民間クラブ		
具体的な内容	・チャンピオンコース【競技志向、月10回活動、14名が参加】 ・エンジョイコース【レク志向、月1～2回活動、1名が参加】 ・同じ会場で同じ指導者によって同時に実施 ・エンジョイコースはシュートが好きな生徒が参加し、指導者はシュートの方法を指導		
関係者の声	●代表者（指導者） ・団体での活動は苦手だがシュートが好きということで、通常の活動とは別にエンジョイコースを設けた ・本人が楽しんで参加できるなら、このかたちで良い		
運営経費	・収支については、把握していない ・チャンピオンコースの月会費3,000円だが、エンジョイコースは1回500円とし参加しやすく設定		



松本市公式YouTubeチャンネルより

- 1 活動目標
心身の健全な育成、スポーツの普及を推進し地域社会のスポーツ文化の振興に寄与することを目的とする
- 2 目指す生徒像
常に成長・感謝を忘れず取り組む姿勢
- 3 育てたい力
礼儀正しく何事にも全力で取り組む力
- 4 地域クラブ活動の活動内容
 - (1) 指導方針
勝利至上にならずバスケットを楽しみながら技能を高める
 - (2) 指導者
代表をメインとし後継指導者の育成にも尽力する
 - (3) 適切な休養日及び活動時間の設定
原則「松本市中学生期のスポーツ活動指針」に準ずる
 - (4) 大会の参加
リーグ戦、選手権、中体連（今後参加予定）

【alwaysの運営方針】

Webサイト「まつチャレサポートデスク」より転載

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

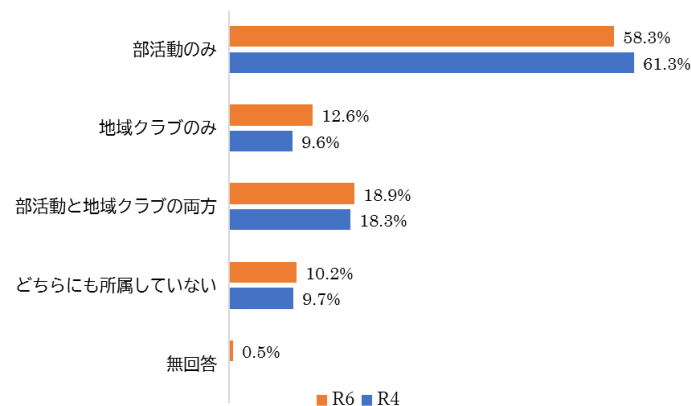
取組事項

- 令和4年度に続き、アンケート調査を実施
- 調査時期は9～10月
- 対象者は小学5・6年生とその保護者、中学1・2年生とその保護者、中学校教職員
- Web上で回答
- 2年前に比べ、以下の変化を確認
 - ①中学生の部活動の加入率は低下し、地域クラブの加入率が上昇
 - ②保護者の金銭負担の許容額が上昇
 - ③教職員は、休日・平日ともに指導希望が低下

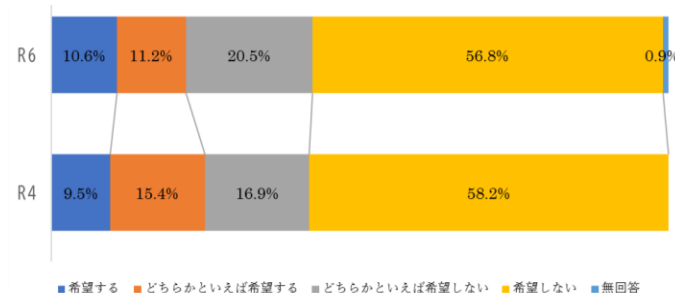
アンケート調査の結果

○回答の一部は以下のとおり

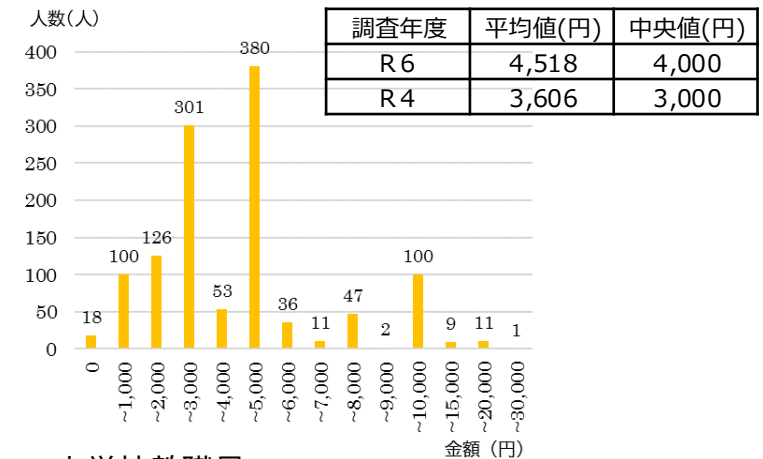
●中学1・2年生 「今の所属は部活動、地域クラブのどちら？」



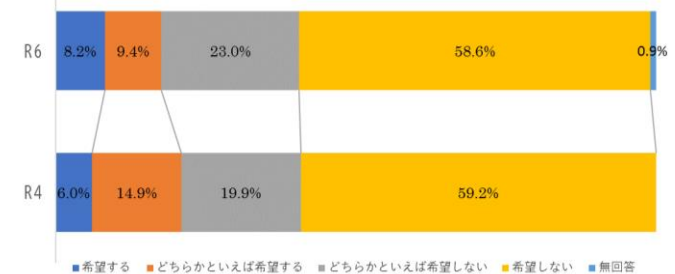
●中学校教職員 「休日の地域クラブ活動の指導希望」



●中学1・2年生の保護者 「今の所属は部活動、地域クラブのどちら？」



●中学校教職員 「平日の地域クラブ活動の指導希望」



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

- 地域クラブ創設支援補助金を創設。一定の条件を満たしたまつチャレに対し、初期費用等にかかる経費の一部を補助。条件は以下のとおり【実証事業対象外経費】
 - ・市内在住の中学生が5人以上在籍、週1回以上活動、主な活動場所が市内
 - ・大会・コンクールなど成果発表の機会がある、年1回市主催の指導者研修を受講
- 初期費用を参加者負担としないことで、費用負担の軽減を図る
- 1年目10万円、2年目5万円を上限とし、徐々に受益者負担等による自立的な運営を促す
- 地域クラブ参加者支援補助金を創設。就学援助受給家庭が、創設支援補助金の交付を受けるまつチャレに参加する場合に、年24,000円を上限に参加費を補助【実証事業対象外経費】
- 確実な個人情報保護により安心して地域クラブ活動に参加できるよう、対象者へ直接給付

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

各クラブが自立的に運営するため、把握・分析は行っていない

■ランニングコストの分析

各クラブが自立的に運営するため、把握・分析は行っていない

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

- 本市では、各クラブが自立的に運営し、会費や指導者謝礼を独自に設定
- まつチャレとして公表している26クラブの傾向は以下のとおり
 - 1 入会金：平均2,350円、最低額0円、最高額10,000円
 - 2 月会費：平均2,380円、最低額0円、最高額6,500円
- 種目・クラブにより必要経費や参加費収入が異なるため、行政が一律に基準を設けることは、各クラブの自立的な運営を妨げるとともに、結果的に、中学生の体験機会の多様性が失われることになる考える

収支バランス

各クラブが自立的に運営するため、把握・分析は行っていない

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

○地域クラブ創設支援補助金

- ・申請13件、相談4件
- ・年度途中の制度開始だったことから、次年度から2年間の交付を希望するクラブが多く、申請が伸び悩んだ
- ・補助金は年度末に一括交付されるため、現時点で受領したクラブはなく、実際にどの程度会費等が軽減されたかは把握できない
- ・前年度は指導者謝礼を対象にした補助金だったところ、用途が限られ利用しにくいというクラブ関係者の声を反映し、初期費用など幅広い用途に利用できる補助金を新たに策定したが、クラブ関係者からは好評を得ている

○地域クラブ参加者支援補助金

- ・申請・相談ともに0件
- ・今年度は部活動も継続するため、まつチャレに参加する生徒がいなかったと推察

○こうした行政の財政サポートがあることで、クラブ関係者・保護者等に一定の安心感を与えることができ、地域移行への理解が進んだ

今後の課題と対応方針

○両補助金とも、対象者への直接的な金銭給付であることから、実証事業の対象外経費である

○各クラブの主体性や多様性を担保し、困窮世帯が安心して参加できる仕組みとして、市単費で実施しているが、財政負担が大きいつまで継続できるか不透明

○そのため、クラブには公費に頼らない自立的な運営を、保護者には受益者負担を求めながら、取組みを進めている

○次年度は、両補助金の申請状況や効果を検証し、恒久的な制度とするかの検討を進める

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 民間団体であるまつチャレの利用に向け、学校開放ルールの見直しを検討
- 市内関係課や教育委員会での議論により、見直し方針を策定
- R7.1に、学校施設利用団体等へ見直し方針を周知
- 次年度に関係条例を改正し、まつチャレの利用を促進する

取組の成果

○現状・課題

- ①社会人や小学生の団体も含め、10人以上であれば登録団体(優先予約・利用料減免)となり、既に登録団体で予約が埋まり、新規利用が困難
- ②他のスポーツ施設も既に予約が埋まっており、学校施設でまつチャレだけを優先すると、これまで利用していた他世代の団体が活動場所を失う
- ③学校施設の予約区分・料金体系が、朝・午前・午後・夜の概ね4時間ごとに1区分となり、活動時間に合っておらず無駄な予約が発生
- ④テニスコートが開放対象になっておらず、学校活動以外では利用できない



○見直し方針【R7.4～】

- ①まつチャレになれば、人数に関係なく登録団体になれる。ただし、予約優先順位は、他の年代の登録団体と同等
- ②すべての登録団体の利用上限を新設（平日:週1日、2時間まで 休日:週1日、3時間まで 体育館と運動場の同時予約は禁止）することで予約枠を空け、新規利用を可能とする ※予約が重複しない場合や、他の登録団体の了解が得られる場合はこの限りではない
- ③条例改正により、予約区分・料金体系を1時間単位に変更し、予約枠を細分化することで、予約枠を増やす
- ④条例改正により、テニスコートを新たに開放対象に加え、学校活動以外での利用を可能とする

今後の課題と対応方針

- 平日夜間は、他年代の団体と予約が競合し、部活動に比べると活動時間が減少する可能性がある。しかし、中学生だけを優遇することは世代間の不公平を生むため、理解を求めるしかない
- テニスコートは、部活動以外では学校活動で利用せず、今後は地域クラブの利用だけとなる。その場合、維持管理費として一定の受益者負担が必要との声もあり、利用料減免をいつまで継続するか検討が必要

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○R5の実証事業で明らかになった、生徒・クラブ・指導者のそれぞれの課題に対し支援策を実施し、一体的に取り組みを進めた

○市民・関係者への情報発信を進めるにあたり、「市の目指す姿とその理由」「実現に向けた具体的施策」を改めて整理したことで、取組みに一本の筋が通り、市長部局との連携や学校施設開放の見直しなどが進んだ

○「中学校の部活動を行政や民間事業者が担う」というイメージが先行するなかで、本市では、部活動をそのまま継承するのではなく、新たに民間活動として展開を進めるため、関係者のイメージの転換を促すことを意識した

○休日移行だけでなく、令和8年度末に平日移行というスケジュールも公開したことで、まつチャレのうち17クラブが平日も活動を実施することとなり、平日移行に向けた機運も高まりつつある

●成果の評価

○地域クラブの創設・運営支援について、中間支援を民間事業者に委託して地域クラブマネジメント業務として実施。「まつチャレ」という地域クラブの枠組みを設定し、規約例の作成、クラブの公表などを一体的に実施し、取組みが一層推進した

○「まつチャレ」は、民間の多様な団体が独自に運営することから、共通運営マニュアルが各クラブの自主性・独自性を阻害する可能性も検討したため、策定が進まなかった

○60程度のまつチャレの創設を目指すも、30程度に留まり、現状では不十分と言わざるを得ない。様々な団体への草の根的な掘り起しが必要

○指導者研修は、ほぼ計画通り実施することができたが、参加者数が伸び悩んだ。指導者へ参加を義務付けるだけでなく、一般・学生も広く対象にし、指導者候補を育成する機会としたい

●今後に向けて

○部活動地域移行を、単に「部活動改革」として部活動を前提と考える関係者も多く、議論がかみ合わないことも多々ある。引き続き、広報活動を強化して市の目指す姿を示しながら、関係者と同じ方向を向いて取組みを推進する

○クラブから、指導者の雇用契約の確定申告について不安の声があったことから、改めて共通運営マニュアルの策定を進め、クラブの運営をサポートする

○市単費で各種補助金を実施しているが、各クラブの自主性が中学生の体験機会の多様化につながることから、次年度も各種補助金を継続

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

○令和6年9月 「まつチャレサポートデスク」周知チラシを配付

○令和7年2月 令和6年9月実施のアンケート調査結果を市HPで公開

○令和6年12月 説明会「どうなる？部活動の地域移行」周知チラシを配付



まつチャレ
サポートデスク

サポートデスク開設に伴い
WEBページをOPENしました。

さまざまなお問合せ・ご相談や各種届出や
申請を受付しておりますので、
WEBページをお気軽にご覧ください！

松本市では、中学生のスポーツ・文化活動の“やってみよう”を地域の皆さんが
支えるかたちで、部活動の地域移行を進めています。その中核を担うのが、まつも
と子どもチャレンジクラブ（＝地域クラブ、通称「まつチャレ」）です。

中学生が活動する
団体の方へ

まつチャレとして、中学生の
スポーツ・文化活動を支えましょう

生徒・保護者の方へ

学校部活動の代わりに、まつチャレに
参加しましょう

学生・指導者の方へ

まつチャレの指導者として、地域の
中学生を育みましょう

① クラブの立上げや運営に
ついて相談できる

② WEBでまつチャレの届出や
施設利用申請の申請が可能

③ 数値の検定やFAQが充実

① WEBのまつチャレの一覧から
参加したいクラブをチェック

② まつチャレの活動について
相談できる

③ 参加は強制ではありません。

① 指導者人材バンクで、まつチャレ
と地域の指導者をマッチング

② 対象は18歳以上、WEBで
登録が完了

③ 既にまつチャレのクラブに
所属する方は登録不要です

まつチャレサポートデスク電話問合せ ☎0120-979-066
電話対応時間 / 平日・土日 9:00～17:00（祝日対応外）
運営 / スポーツデータバンク株式会社

「まつチャレサポートデスク」周知チラシ



まつチャレ
どうなる？
部活動の地域移行
説明会

参加無料
各日程 60名
Webサイトにて事前申し込み
《当日参加可》

お申し込みはこちら

※2回とも同じ内容で実施します

第1回 12月22日(日)
14:00～15:30
(会場 / 波田公民館大会議室)

第2回 2月1日(土)
10:00～11:30
(会場 / 庄内地区公民館大会議室)

今、全国で中学校の部活動の地域移行に向けた取り組みが進められています。
当たり前にあった部活動が変わることに、不安も大きいのではないのでしょうか。

部活動はなくなるの？
いつまでに変わるの？

どうやって
参加するの？

そこで、松本市が目指す「新しいスポーツ・文化芸術活動」
について、ご説明します。

対 象 クラブ関係者、保護者（生徒）、地域指導者、企業関係者

お問合せ先 松本市教育委員会 教育政策課 教育政策担当 / TEL:0263-33-3980
まつチャレサポートデスク / TEL:0120-979-066

説明会「どうなる？部活動の地域移行」周知チラシ



別冊 2

令和 6 年度
部活動の地域クラブ活動への
移行に係る調査
結果の詳細

「やってみよう」プロジェクト

子どもの
を応援する ガクトまつもと

令和 7 (2025) 年 2 月
松本市教育委員会

令和6年度アンケート調査結果

出典:いずれも松本市教育委員会作成

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



広報まつもと3月号_表紙



広報まつもと3月号_中身



プロスポーツクラブ派遣コーチング（VC長野トライデント）



説明会「どうなる？ 部活動の地域移行」

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

・協議会設置
・4種の運営主体によるモデルケース実施

・他市事例の調査
・庁内で取組み方針案を検討

・市の取組みの検討
・関係者と協議

・移行推進計画を策定
・次年度の市の取組み案を決定

令和6年

・事業費予算化のため、
庁内・市議会で協議

●ステークホルダー

・学校、R5年度モデルケース、市長部局（スポーツ事業推進課、文化振興課）、教育委員会（教育政策課、学校教育課、生涯学習課）、総括コーディネーター

●経過

・令和4年度：アンケート調査実施し、中学生のニーズ等を把握

モデルケースの実施に向け、該当中学校・既存スポーツ団体等と協議

・令和5年度：月2回程度、庁内関係課担当者会（教育政策課、学校教育課、スポーツ事業推進課、文化振興課、生涯学習課）を開催
モデルケースを実施。該当中学校、該当部活動保護者会、該当クラブと何度も協議し、課題等を抽出

スポーツ事業推進課・文化振興課が、中学生を受入れる民間クラブ数を調査、地域クラブの実施主体としての可能性を検討

移行検討協議会を設置。モデルケースの状況、他市事例、市内クラブ等をもとに市の方針を協議し、地域移行推進計画を策定

随時、校長会、保護者会、部活動顧問会、競技団体会議などで、進捗報告と意見聴取を実施

・令和6年度：6月補正予算において、取組みにかかる事業費を協議し予算化。具体的な取組みを実施

●実施にあたって生じた課題

・正解がないなかで、庁内も含めほとんどの関係者が断片的なイメージしか持っておらず、議論が堂々巡りになりがちだった

●実施内容、工夫した点 等

・先進自治体への聞き取り調査などにより他市事例の比較検討を行い、まずは庁内で、移行後の目指す姿と、その具体的な移行方法を検討した

・市がイメージを示すことで、関係者からの意見も具体的になり、協議が進んだ

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	R6			R7												R8												R9											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5										
国	改革推進期間 休日における地域の環境整備を着実推進 【地域クラブ活動への移行に向けた実証事業】															改革実行期間（～R13） R7春に新たな方針を策定し、ガイドライン改定を予定 【具体的な支援策は未定】																							
県	休日移行期 地域の実情に応じて、新たな地域クラブ活動の環境を整備																														将来的に、すべての部活動を地域クラブ活動に移行								
松本市	移行準備期 移行に向けた環境を整備 【60のまつチャレを想定】 ・文化部や山間エリアの課題検討			休日移行期 年度末までに、休日の学校部活動を終了 【100のまつチャレを想定】 ・種目、地域別の活動状況を把握し、個別の対応策を検討															平日移行期 年度末までに、平日の学校部活動を終了 【140のまつチャレを想定】 ・種目、地域別の活動状況を把握し、個別の支援を実施												活動充実期 移行完了により支援終了も、国の財政支援がある場合は、支援策を検討・実施								
中学校部活動	部員の少ない部活動は、休日活動の早期終了や部活動終了を検討									3年生の引退や新人戦終了を目的に、休日の部活動を終了									年度末までにすべての休日部活動を終了 部員の少ない部活動は、部活動終了も検討									3年生の引退や新人戦終了を目的に、部活動終了									年度末までにすべての部活動を終了 まつチャレが難しい種目・地域は別途検討		
地域クラブ マネジメント業務	●まつチャレサポートデスクWeb運営、 コールセンターの設置 ・対面説明会（12/22、2/1） ・解説動画公開 ・創設支援補助金受付 ・まつチャレ一覧の公開・更新 ・指導者人材バンク ・指導者研修（3/1）			●まつチャレサポートデスクWeb運営、まつチャレ充実に向けた地域団体との連携強化 ・地域クラブの掘起し ・地域クラブ創設支援 ・地域クラブ運営支援 ・地域クラブ参加促進 ・指導者人材バンク ・指導者研修 ・対面説明会（年2回程度）、解説動画公開 ・創設支援補助金受付・相談受付 ・実施状況把握、相談受付、クラブ一覧更新 ・体験会等イベント開催、生徒・保護者説明会（年2回程度）、解説動画公開 ・大学、民間企業等への指導者登録呼びかけ ・課題に対応した研修を随時実施、市主催研修補助																																			
指導者研修	●教育的意義に関する指導者研修（2回 1～2月） ●プロスポーツクラブ指導者研修 4回 2～3月			●教育的意義に関する指導者研修（年2回程度） ●プロスポーツクラブ指導者研修（4団体×年2回） ●スポーツ医学に基づいた指導者研修（年2回）																																			
補助金等	●参加費支援補助金 ●創設支援補助金 R6申請（1年目：R6、2年目：R7）			●創設支援補助金 R7申請（1年目：R7、2年目：R8）															●創設支援補助金 R8申請（1年目：R8、2年目：なし）																				
学校開放	●方針決定 ・教育委員会 ・学校開放管理指導員会議 ・移行検討協議会 ●予約上限の設定 （平日1日2時間以内、休日1日3時間以内）			●条例改正準備 ●条例改正 ・利用料・電気料の区分 ・テニスコート追加 ●改正内容等周知 ●改正後の内容での予約受付開始 （12月使用分以降）									●事業内容の見直し（R7年度中にR8年度以降の見直し内容・スケジュールを検討） ・登録団体の廃止、廃止後の予約方法・料金体系等の運用全般（条例・規則改正含む） ・見直し内容に合わせたシステム改修の必要有無の検討（予算措置含む）、必要場合は改修 ・見直し内容の周知、説明（学校、利用者等）																										
まつチャレ	まつチャレサポートデスク支援と創設支援補助金を受けて、創設・活動開始、運営継続 参加者及び会場の確保、大会への参加・運営、指導者の確保、外部資金の獲得																														●支援完了 ・塾などと同様に自立した運営を行う								